

勢陽五鈴遺響 一志郡

二十三

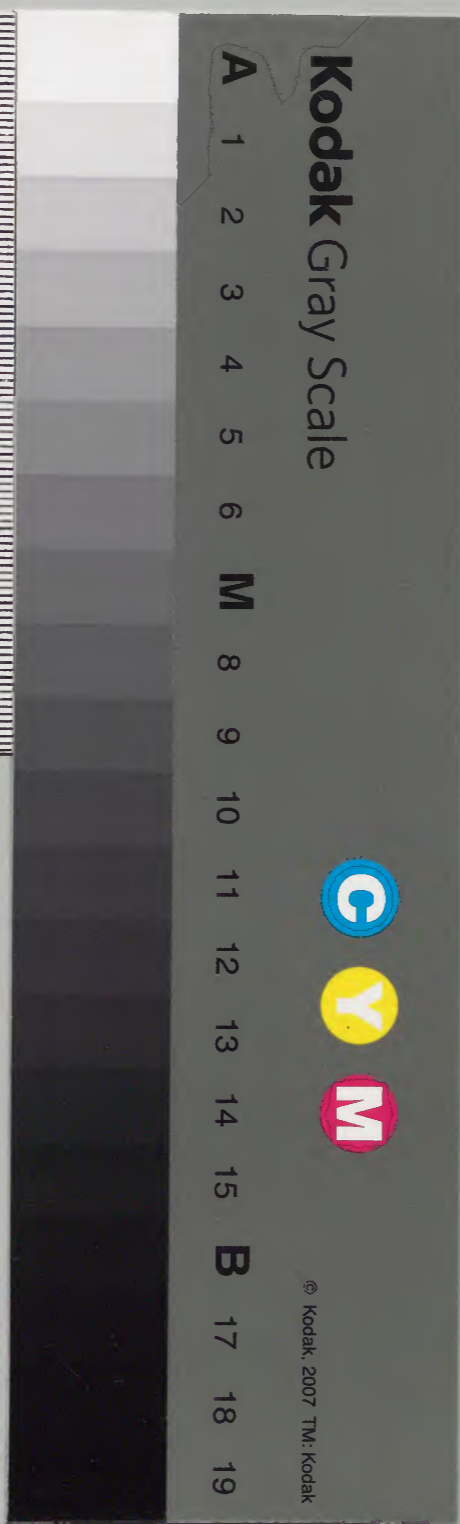
和書門			
二九〇一九			
冊	架	函	號
四〇			

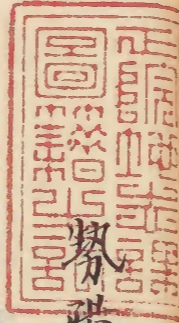
庫開内		
和書		
二九〇一九		
冊	架	函
四〇		

閣21	
-----	--

内閣文庫	
番號和	29019
冊數	40 (23)
函號	172 310

内一〇七六六號



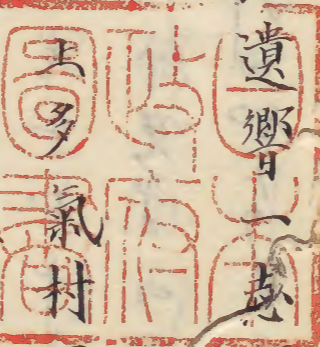


陽丑鈴遺響郡卷之

内一〇七二五號

真善院

本尊大日如来



国司館舎ノ墟アリ天台宗

至リ稍ク五世相續ス堂内ニ多氣屋形圖及藩

中連署ノ録一冊ヲ藏ス古図ハ蟲魚ノ患ニ公

明ナラス故ニ再撰ノ今藏スト云其旧幅ハ村

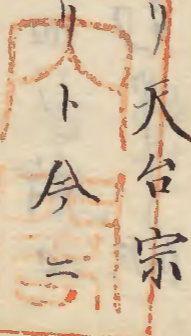
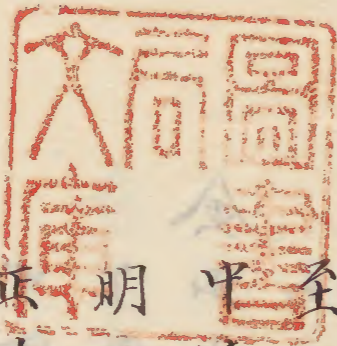
其ノ許ニ秘蔵ス連署録ハ近世ノ撰ナリ其餘

遺物ナシ

八幡祠 本堂ノ南ニアリ三社並建リ中央ハ北

畠准后親房ヲ祀ル南ハ鎮守府將軍頭家北ハ

国司始祖頭帳ヲ祀レリ方俗中央ハ八幡宮南



天照大神北、春日明神、三社ト詔リ祀ル
鳥居アリ拜殿ナシ

禁中宮 真善院ノ乾位ニアリ後醍醐天皇後村

上天皇ノ御廟ナリト云清須本ニ載ス方俗禁

中宮ト称ス法昔ハ八幡ヲ祀レリ治世ノ時ヨ

リ存ス知ナリ

金山大明神 真善院ノ乾ニアリ水邑ノ生土神

トス方俗カナフ明神ト称ス又多氣公野因ニ

金主明神或叶明神ト録ス北畠家存世ノ時ヨ

リ奉祀スル知ナリ 多氣窓堂曰 むし伊

賀浮勢ハ兄弟ノ國あり日鷲命此西川ナリ北

と布川ハヤリト下及ニの由去ル所ナリ

此國ノ事ハ...

今ノ事ハ...

つり...

て...

必...

ルニ天日鷲命ノ事蹟ハ和銅風土記ニ所載ニ

シ安濃郡安濃神社ニ祀レリ此記ニ遷シ祀ル

ト填レハ彼地ヨリ多氣ニ遷坐アリニナリ其

地本誓得或曰金山明神ハ治世ノ大祠ニノ崇

敬異ナルニ知レハ本又ト牽強ノ日鷲命ヲ祀

ル知ナルハニ未詳ノ論ナリ今考ルニ後村上

天皇大倭州吉野郡賀名生ニ皇居ノ其地主ノ

神ヲ北畠家ノ迹ニ祀ル如キルヘシ其謂ハ
名生金生叶氏ニ訓通ヘリ後世ニ及テ字ヲ轉
シ誤リ又金山ト轉訛セシナリ然レモ未其微
ヲ得ストイハ氏永祿中尾州織田家清須沙汰
本ニ賀名主ト記セリ稍ク真トスヘシ
香榮寺 字ハ六田ニアリ多氣公野因ニ北畠家
館舎ヨリ東ニアリ考ルニ今其地ニノ未旧地
ヲ夢セス

沈福慶院址 香榮寺ヨリ民位ニアリ多氣公野
因ニ存ス今廢亡セリ 藏玉権現堂アリ
慶正慶院址 同如櫻馬場ノ東ニアリ今廢亡セ
リ多氣公野因ニ存ス如今耕地トナレリ櫻馬

馬場ハ往昔左右櫻ノ列樹ヨリテ館舎ノ東惣門
ヨリ直路ニ此院ニ至ル大路ナリ今馬場ニ廢
シ田圃ノ中ニ大路ハ其址ヲ存ス
觀音廢寺址 同如犬追物馬場ノ西ニアリ今馬場ト
稱ス田圃ノ中ニアリ 永祿年公野因ニ所載
人ナリ今ハ之ニ
慈恩廢院址 同如ニアリ同公野因ニ所載ナリ
今ニシ
洞雲廢寺址 同如坤位ニアリ同公野因ニ所載
ナリ今廢ス
聖光寺 同如町小路ノ川岸ニアリ同公野因ニ
所載ナリ往昔寺前ニ石燈爐一基大橋ノ南詰

ニアリ今猶存セリ

安中庵廢址 同知町屋南裏ニアリ同分野図ニ

所載ナリ今ニシ

大正庵 同知字ハ水津ニアリ今大聖寺ト号ス

浄土宗同分野図ニ所載ニノ治世ノ時ヨリ存

セリ

大蓮廢寺址 同知ニアリ同分野図ニ所載ナリ

今ニシ 毘沙門堂 上ニ同シ

廣大明神 同知ニアリ今ニ存ス同分野図ニ所載

ナリ

法光廢寺址 同知廣明神祠ノ南ニアリ同分野

図ニ所載ナリ今ニシ

傳通院廢址及松月院廢址 同知ニアリ同分野

図ニ所載ナリ 水願廢寺址及養永廢寺址同知

南ニアリ同分野図ニ所載ナリ

長泉寺廢址 立川町屋裏ニアリ

茶臼淵 堅川ニアリ多氣川ノ水源ナリ溪澗ノ

間ニ二大宮上下ニ疊ニ重リテ砥臼ノ如シ其

間ヲ流水激テ下レリ故名ク分野図ニ所載ナ

リ今尚存セリ

川上杉峠口 川上村堺ニアリ国司館舎ヨリ五

十五丁

櫃坂口看監所址 上仁柝ノ堺櫃坂ニアリ国

司館舎ヨリ七十余丁ニアリ

嶂路越口 丹生保 = 了り 国司館舎ヨリ百余丁

飼坂口有監所旧址 奥津ノ塚 = 了り 国司館舎

ヨリ二十二丁

比津峠越口 奥津塚 = 了り 国司館舎ヨリ三十

五丁

櫻峠口有監所址 国司館舎ヨリ五十

二町

白口峠有監所址 国司館舎ヨリ五十

町

漆峠口 下多氣漆ノ塚 = 了り

以上四箇知鎮護ノ監所ヲ若ク又四箇知ノ徑

路有四方ニ通ル治世ノ時要害ヲ設置知也

専修廢院址 今ハ町屋ノ東ニ了り永正年中ハ

野因ニ所載ナリ

藥師廢寺址 今ノ真善院良位ニ了り永正年中

ハ野因ニ所載ナリ

惣持廢寺址 其地未詳

竜淵廢寺址 其地未詳雜記ニ所載上多氣ニ了り

今ハ廢ノ土民ノ耕地トナリ字ハ遺レリ今按

スルニ永正年中應永永祿中ノ分野因ニ亡シ

永祿ヨリ以住ノ一二本ニ不載トイハレ其耕

地ノ名ニ遺ル知ハ真ナリ然レハ永正ヨリ以

前ノ存在ス知ナルハシ

福壽院 国司館舎ノ北ノ傍ニ了り今下多氣ニ

存ス後世述ニタル如ナルヘシ永正年中分野
因ニアリ其以後ノ諸本ニナシ永正ノ後ノ轉

移ナリ

下多氣 上多氣ノ北ニアリ 正稅三百五十三

石津領ナリ今檢スルニ九百五十一石九斗六

升四分民家四十戸古今甚異ナリ 属邑漆ア

リ本邑ノ西ニ居ス古昔ハ上下多氣各一郷ナ

リ今下多氣ヲ置クトニヘタリ

慶幸山金因廢寺址 同如ニアリ古屋州紙金剛

寺ニ作ル非ナリ曹洞禪宗法昔ハ大刹ニノ十

六字子院ナリ寺領五百貫国司北畠家治世ノ

井會下ニ數百口ノ僧集リテ勸學ノ道場ナリ

多氣城廢亡ノ後耕鋤ノ地トナリテ其址ヲ遺

セリ永正年中及真善院因分野因ニ所載ニノ

永祿中清須水ニハ亡シ永正ノ後廢絶スト唯

クフヘシ 背書國誌云當寺ハ北畠家曆代ノ香

華所ナリトノス

崇恩廢寺址 今未詳 北畠材親多氣窓堂曰む

かし京北七條細のかりのりにに到りぬれり

浪泊陣の竹の名を新成とつゆ多條これ此

多條のありて地のかうらとうらなを以て多條

うらハ都ノ似かきかへは隣ありありありて

つよこの崇恩ちよおしきりげよや下官の家

さうへ以て去る代 強そと恩堂すふかり

乃中少ナリハ多クヤリト時ハあやしく
傳ヘテハ一ツ所ノ師匠ナリト云フ
其後シテタリテ崇恩寺ノ竹物ニク
ナリト云フ
今詳ニスルニ崇恩寺應永天
文永祿等ノ古図ニ其地ノ徴ナシ然レハ材親
記ニ所載ハ永正年中ナリ其時存在スルナリ
何レ應永天文ノ図ニ不載ハ疑ヘシ故ニ其旧
址ヲ詳ニスルニ能ハスコトニ標スノ
旭照山西向院 同知ニアリ應永年間以後ノ図
ニ六地藏ヨリ南ニ川堰ニアリ真善院本ニ西
迎院ト記セリ
長樂寺 同知ニアリ分野図ニ曰ト丹生保ニア

ナリ今此地ニ過スルナルヘシ
妙法菴址 應永分野図及真善院図ニアリ金生
山明神ノ乾位川堰ニアリ今ハ絶タリ永祿年中
図ニニシ 今詮スルニ永正年中 中国司材親隱
棲ノ飯高郡大石ニ居ス大石御所ト称ス其時
館ノ南ニ過ノ妙法菴ト称ス其後ハ大石ノ條
ニ詳ニセリ故ニ此地ニ廢ノ永正以後ノ分野
図ニ不載ナリ
善向弥菴址 白口峠ノ麓ニアリ應永及真善院
図ニ載ス今旧址詳ナラズ
有壽院及月徳寺是故院廢址 未詳 永祿及真
善院 図ニ有無ナリ都テ多氣旧墮図傳ハ別幅

ニ録セリ

高宝山應壽寺 同如属邑漆ニ了リ 真言宗

本尊不動明王 雜記所載往昔ハ大刹ニ本

堂護摩堂善美ヲ尽シ莊嚴ナリ寺領二百貫ノ

地ナリシカ北畠家滅亡ノ後終ニ其名ヲ存ス

ノニ 今詳ニスルニ應永ヨリ永禄ニ至リ諸

因ニ亡シ其徵ヲ未得處ナリ若ハ有壽院ノ再

造セル如ナルヘシ其寺号ノ轉訛ヒルカ如シ

猶考ヘシ

山王権現 同如ニ了リ今ニ存在ヒリ

経塚山 同如ニ了リ法花藏石経ヲ塵ム如ナリ

慶由淵 天正四丙子年十一月廿五日三瀬御所

具教ヲ謀リ撃ントテ信雄ノ冷ヲ奉リ藤方刑

部少輔奥山常陸从滝川三郎兵衛尉長越左京

進四人具教ヲ害ス刑部少輔カ父慶由入道四

九城ニ質トシタルカ其旧主ノ恩ヲ顧テ愁

憤シ旧郷ノ多氣ニ帰シ深淵ニ身ヲ投メ義死

シケル其旧址ヲ慶由カ淵ト名ク伊弉兵乱記

所載ナリ詳ニ皮會郡三瀬條ニ載ス

小川 下多氣ノ東ニ了リ同郡同名了リ 正税

二百五十二石六斗七升三合氏家八十六戸津

領ナリ 属邑 小旗本邑ノ西ニ了リ 中村

小旗ノ南ニ了リ本郡ニ小川ニ如了リ

抽原 小川ノ巽位ニ了リ 正税三百九十九石

林五斗七升氏家七十戸津領ナリ 属邑十寺谷

水邑ノ南ニアリ 北畠家臣湯原半九郎居住

ス真善院名録ニ載タリ

阿良々木明神 柚原ニアリ祭神未詳方俗蘭ノ

字ヲ用和名鈔ニ蘭阿良羅伎ト訓スルヲ以ノ

故ナルヘシ然レモ此木ノ事ニ非ス阿羅良木

ハ和州金峯山等ニ益物ニ製ノ多ク貨賈ス又

笏ニモ作ル故ニシヤクナギト称ス石楠花ノ

轉ナルルヲ笏ニ造ル木ハ何ニ不限朝野群載

ニ寸法ハ所載トイヘモ其木ヲ指トナシ唯及

裂ナル木ヲ用故ニ上世ヨリ阿良々木ハ木理

密ニノ羨ナリ殊ニ不及裂カ故ニ通ノ用俗ニ

欄ノ字ニ作ル此地古昔ヨリ石楠樹多生タル

社地故ニ名クナルヘシ孰レ近世ノ巫宮ニノ

郷俗小兒ノ病患延壽ヲ禱習風ナリ古屋州紙

坂内村荒良伎神社素戔鳴尊ヲ祀ルトスハ未

詳 例祭八月十六日近郷ノ諸人多シ

後山 柚原ノ十六丁良位ニアリ 正税百廿六

石今百七十七石六斗六升氏家四十戸津領ニ

属邑潤草 木邑ノ乾位ニアリ 雜記不載明

田曆中ノ後ニ所置ナルヘシ後山ノ名義ハ柚ノ

原ノ良ノ山ノ後ニアリ故名クナルヘシ

與原 後山ノ良位廿丁ニアリ 正税二百三十

七石九斗七升八合氏家三十七戸津領ナリ

飯福田 與原ノ十五丁 乾位ニアリ 松坂ヨリ西
三里 正稅百二十一石 二斗九升 氏家二十五

戸津領ナリ

国峯山飯福田寺 同知ニアリ 真言宗 相傳

云文武天皇大宅年中 役優婆塞小角建立 本

尊藥師如来不動明王同作 鎮三神 蛭子

仁王童子 愛宕推現 熊野三社 吉笠藏王

権現又白山権現鎮徳上人感得ノ神ナリ 小倭

七所ノ其一ナリ 詳ニ同郡家城ノ條ニ載ス

白山秘所窟溪澗ノ下ニ高三十間ノ岩壁ノ上

ニ一ノ巨窟アリ 七八間四方ノ洞窟ナリ 人跡

ノ及ノ知ニ了ラス 改小角經營ノ草堂アリ 寛

永年中顛倒ス 其枳材及佛像等 白山権現ノ山

頂ヨリ眺ルニ 巖然タリ 又麓ノ窟ト云アリ

此間ノ奥二十間 四方ノ巨窟ニ 並タル間四五

尺許モアリ 此処没行者密法ヲ修セシ遺址ト

云其餘 烏帽子窟 響石 障子岩等ノ數十

ノ怪窟奇石 山中ニ 充滿ス 凡テ郷俗及隣氏飯

福田山上ト称ノ 大倭州吉野ニ比ノ 精進潔戒

ノ諸人多シ 其巨窟ニ 鑿鑿ヲ垂テ 鐘搥不動岩

等ノ名アリ 往昔ハ 倭州金峰山中絶ノ所 此地

ニ登山禪定セリト称ノ 彼後ノ修行所ナリニ

玉門ノ傍ニ 石鏡アリ 又明星石 獅々鼻石

等巨窟アリ 寺傳云 往昔ハ 本堂護摩堂阿弥

陀堂坊舎六宇及莊嚴ヲ尽シ寺領五百貫ノ寺
産アリ多氣北畠家ノ祈禱所ニシテ天文年中修
補増加ノ善美ヲ尽シ嚴重ノ大利ナリ国司家
衰敗ノ後尾州内府織田信雄天正十一年松島
在城ノ時飯福田後山ノ二郷ニシテ寺領百五十
貫ノ地ヲ寄附ス其旧案今ニ蔵セリ織田断絶
ノ後蒲生飛禪守一志飯高檢領ノ片寺産ヲ收
納シ伽藍ヲ壊其材ヲ用テ飯高郡松坂城ヲ經
營ス故ニ再表額ノ今ノ形勢ニ及ヘリ又往昔
ノ古鐘ハ今ニ存セリ什贖トス今詳ニスル
ニ往昔倭州金峰山廢絶ノ登山禪定ノ此処ニ
稍ク轉ノ修行セリト謂フハ其拠ナキニ非ス

俊優婆塞入峯ノ遺跡ヲ慕ヒ熊野ヨリ大峯葛
城山ニ入ル是ヲ順ノ峯入ト称ス其後金峰山
ニ巨蛇棲テ道ヲ妨請スル人ヲ絶タリ山城州
醍醐寺ノ関山聖宝閣梨自ラ斧鉞ヲ執リ入峯
ニ其蛇ヲ斬葉テ再入峯ノ路ヲ関ク大峯ヨリ
ノ熊野ニ出ルノ例ヲ用テ今逆ノ峯入ト称ス
今モ泥呂川ヨリ大峯ニ登山スルヲ逆山ト俗
称ス此縁ナリ故ニ順峰ハ聖護院門主逆峰ハ
三宝院門主天台真言ノ二主ノ首座天下泰平
ノ重務ナリ然ルニ上世大峯入峯ノ中絶ノ片
郷国ノ修験者此処ニ入峯ノ其修行ヲ為セシ
知ナルハ今モ郷俗多ク大峯ニ徇ヒテ六月

七月ノ間登山人ル者影ニ上世ハ大峰山モ御
岳精進ト称ノ諸人ハ一千日別堂ニ入テ精進
潔戒ノ入峯セシナリ其古ニ例ヒテ近俗ハ稍
ク潔齊、葷醒不食ノ登山スルノニ安ナルヲ察
スヘシ清少納言枕草子云 多海、あまを
のふりれしにじをむく日云 男のこゝに
つれ蔵さうしうたぐへいそあお行はしり
時乃ぬるなごしうあこれなりむ川まき
人あぞれ目さぼしてあらんおりいやり清の
る何やのみさぼつたをらん中、嬉みんまりい
つらうにまきつうらうをさうまきめくうは
れ名わりのさよあるとんすり人まらに狂

つれ川まき人とぞゆれとこまなやゆれ清の
ときと地ハ去りうらうら方東つ佐佐賢まあ
ち能なきまきり馬さうは底ときまうてん
小なてうまハたらんうらうはとあしうて
うらうけつうぼくそ除きあつてまふ
まふれつうたうぬさ白き吉山出つてた
くおとあしうたなまあくなうたつてた
ま北今多海に書つらの取の底まきまら
しう水干をうぼあとお門にたおしてし
く海しう人まきつ海人まあつて
ちゆしゆすく此山は小カ、海す
の人まきまきつあさ海まきまき

下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄
 下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄
 下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄
 下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄

ノ間ニ足ヲ容テ攀ルナリ小細石モ各然リ其
 石ノ凹ナルヲ磨テ手洗盥トス者アリ貯水ノ
 用ニ足レリ又一奇異ナリ道邑ノ山澗ニハ有
 ルナシ地産ト謂ヘシ
 小原 飯福田ノ西ニアリ安濃津府ヨリ坤位六
 里ニアリ正税五百三十石九斗九升六合民
 家八十戸津領ナリ
 下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄
 下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄
 下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄
 下河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄

リ中津上村ノ乾位ニアリ
 三谷上村ノ
 民位ニアリ
 山本三谷ノ民位ニアリ
 大草
 山本ノ東ニアリ
 山口大草ノ民位ニアリ
 篠廣山口ノ東ニアリ
 小原ヨリ越ル山路ハ
 下里牛谷越ト称ス
 岩倉 飯福田ノ民位廿六町ニアリ
 正税七十
 五石五斗一升八合
 氏家十八戸
 津領ナリ
 波瀬 八手候ノ民位ニアリ
 安濃津ヨリ坤位
 五里 正税二千四百八十石
 紀州松坂領ナリ
 同名飯高郡ニアリ
 属邑室ノ口本邑ノ坤位
 ニアリ
 波瀬城墟 同知西ノ山上ニアリ
 字ヲ御茶屋ト

称ス又北ノ山ニ奥山常陸ノ城砦ノ跡アリ
 大
 門釘貫等ノ字田圃ノ中ニアリ
 波瀬御所ハ
 国司北畠家ノ族兵五百ノ大将ナリ
 始祖ハ木
 造家ノ公知雅俊ヨリ
 五代顕雅雅親参議左中
 将具房岩内御所主膳正ノ三男参議左中将藏
 人頭具祐ニ至リ任ス
 永禄十二年飯高郡大河
 内軍ノ間ニ居ス
 阿曾彈正忠及矢野下野守等
 與力ナリ
 永禄中三重郡赤堀城ヲ撃ツ
 城兵堅
 守テ陥ルト能ハス
 狂咏ノ和歌ヲ落書ス
 赤堀城ノ事ヲ記シ
 永禄中ノ事ヲ記シ
 北畠物語及伊勢兵乱記ニ載タリ
 矢野山同知ノ西南ニアリ
 高岳ナリ
 山上半腹

夫頭権現ノ祠アリ

古田池 同知ト宮野村ノ間ニアリ水田ノ用ニ

設ク大池ナリ古田山 磯原山等アリ

井生 波瀬ノ北ニアリ 紀州白子領ナリ 属

邑平尾アリ 井生堰 同知ニアリ水田ノ用

井関 波瀬ノ良位ニアリ 正税五百七十六石

紀州白子領ナリ 属邑東山 本邑ノ河南ニ

了リ井関ノ名義ハ井生ニ對ノ田料ノ履ナル

意ナリ 一村氏居ニ石工多シ 凡テ此地ヨリ

久居方位ノ近邑 路傍及寺社等ノ度砌ニ庚

甲塚或ハ石経塚等ノ覆屋ニ石室ヲ巧ニ扉樞

ニ至マテ彫刻ス習俗ナリ井関ノ地山ヨリ石

材ヲ産シ及石巧アリ 當村ノ内櫻峠谷戸高

野山牡丹岩此辺砂具石多シ大仰凡五丁四方

大ノ山谷皆牡丹花ノコトシ

田尻 井関ノ東ニアリ伊賀街道ノ傍ニ民舎ス

正税四百三十一石紀州白子領ナリ度會郡ニ

同名アリ稍ク山林ヲ出テ平田ノ坦地ニアリ

故名ク 神祇抄云内宮田尻御園二十六九月

高野 田尻ノ良位ニアリ 正税八石石五斗六

井氏家五十六戸久居領ナリ

日置 高野ノ良位ニアリ 正税四百三十七石

二斗民家二十五戸久居領ナリ

庄村 日置ノ民位ニアリ 正稅七百六十五石
二斗民家二十三戸久居領ナリ度會郡同名アリ

其時 日置ノ民位ニアリ 正稅四百四十二石

二斗民家十七戸久居領ナリ或ハ園村ニ作ル

戸木 久居府城 西ニアリ七粟郷ノ内ナリ

正稅千六百六十七石久居領ナリ 狐塚小邑

四民位ニアリ

式内敏多神社 同知風早池ノ坤位三丁ニアリ

方俗風早明神ト稱ス祭神大歳神安濃村買漆

神社ヨリ南ハ二里余 度會延經神名帳考證

云敏多神社古事記云天押帶日子命伊勢志師

君之祖也敏志之畧語登與知音通在戸木村
之北風速池之西今稱風速社以志師君祖神有
此名戸木郷名日置之畧語世記云阿佐加之孫
子伊豆速布留神同云伊勢加佐波夜之國鎮火
祭説詞云御心一速神風伊勢名見神武天皇御
製風稱神威之巖忌神風伊勢一志風速同名義
始自阿射加神社 度會正身神名帳再考證云
敏多神社トシタト訓スルハ非ナリ万葉集ニ
美努女浦ヲ敏馬ノ浦ト書タルニ同シ又夕
ト訓スヘシ又夕ハ深瀕田ニノ所祀御年ノ
神ナリ 今考ルニ延經考證ニ敏多神社ノ名
義ニ抑テ敏ハ一志ノ畧登ト知道者ニノ知志

ナリ故ニ古事記所載伊弉ノ尅師ノ君ノ祖天
相帶日子命ヲ祀トス方俗風速池及風速社ノ
名了ルハ天相帶日子命ニ此名了リ倭姫命世
絶ニ伊弉ノ加佐波夜之國鎮火祭祝祠ニ御心
一速日本神武紀神風伊弉國ト云ハ風ハ神威
ノ巖忌ヲ謂ヘリ世記ニ伊豆速布留神ノ速モ
同ク同郡阿射加神社ノ事實ニ抑テ風速ノ名
義ハ此神社ヨリ起レリト云正身再考證ニ敏
多神社ノ名義敏トシト訓スルハ非ニ又万葉
集ヲ引テ敏馬ニ又ノト訓スルニ同ク敏多ニ
又タトヨムヘシニ又タハ即深瀦田ニシテ又
夕ハ沼田ノ略ナリ其謂ハ深キ沼田ト云ナリ

其沼田ニ所祀ナレハ祭神大歳神ナリト云ノ
義ナリ前考證ニ敏ハ尅志ノ畧ト云ハ凡未具
詳ヲ得ス敏ノ字ハ譚スト云片ハ多ノ義モ尅
志田ト云ヘキナレハ尅志ノ田ト云ノハ荒
唐ナリ猶風速ノ俗稱ス抑テ神武記世紀ノ文
ヲ激ムレ凡牽強ナリ風速ノ池ノ稱ス伊弉名
所拾遺和哥集ニ加佐波夜國ノ名了ルニ抑ル
ナルヘシト云前ト同ニ再考證トシ夕ト訓ス
ルハ非ニソニス田ト訓スヘシト云ハ從フヘ
シ既ニ倭名抄尅志郡郷名ニ民太三乃多村邑
ニ今美濃田ナリ其敏多神社ノ戸木ニ在ス地
モ民太郷ナルヘシ然レハニ又タト訓スルヲ

是トス猪田ノ義ニ拠レハ稻穀ヲ所掌ノ大歳
神ヲ填ルト云モ理ナリトス然レモ必定ニ難
シ五ノ嵐久貞式社業内記ニ祭神倉稻魂命或
古屋中紙級長戸辺余ヲ奉祀トス級長戸辺余
風神タルヲ以テ風速池及風速明神ノ名アル
ニ拠ルノ附會ナリ倉稻魂命ハ大歳神ニ從ハ
ルノ説ナリ各真トシ難ニ其氏太郷名名ハ猪
田ニ同義ナルニ拠テ再考證ニ所謂祈年穀ノ
云ハ姑ク後ヲベシ

風早池 同知北ニアリ大沼ナリ縦十町餘横二
町ナリ前ニ録ノ如ク此池ノ末流同郡藤方村
ニ到テ相川ト称シ相川ハ間河ノ意ニ本郡

安濃郡ノ堺疆ヲナス故ノ名ナリト古説ナリ
往昔ハ北畠物語等ニ所載カ如ク本郡安濃ノ
郡界ナリ當今ハ安濃津ノ藤枝町ト壘水ノ間
ニアリ後世ノ定ル知ナリ国歌ノ歌トテ

風子の池此なるれを所そ安濃ト一志此隈ト云々

故ト北畠物語及名所拾遺ニ古記ノ哥或ハ古
老ノ傳哥ト記セリ就レ往昔ヨリ口碑ニ傳ル
知ナリ又同記ニ伊勢国ニ加佐波夜ノ国ノ称
アルハ風早ノ名由縁アルニト其名義ハ未
詳猶前号敏多神社ノ條ニ標セリ然レモ牽強
ニメ敢テ後ニ難ニ或曰一志郡ニ隸ル知ニメ
池沼ノ大ナルヲ称ノ所謂一志ノ池ト填テ新

古今及夫木集

さうしち原家公風出好く一志は池一河より考へ

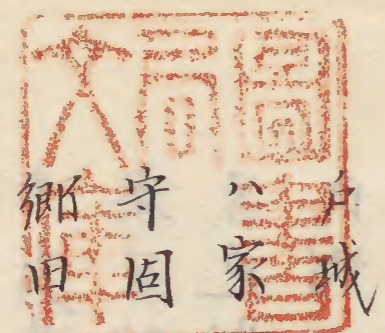
又国誌及拾遺等一志郡一志ノ池ト謂
フヘキナシ風早ノ池アリ是ナラント疑ヲ案
メ暗一志ノ池一填ル一似リ各非ナリ今考
ル一夫木集西載ハ市磯池一ノ今大倭州十市
郡池内村一アリ履中天皇稚櫻宮ノ遺址也
日本書紀履中天皇二年十月磐余一皇居ヲ造
リ三年十一月磐余ノ市磯池一両枝ノ舟ヲ浮
遊獵マズ櫻花ノ落テ御盃一浮ヘリ此花何ク
ヨリカ来レルト勅アリ長真膳ノ連此花ヲ尋
テ掖上ノ室山一至リ櫻花ヲ得テ献ル冬月珍

奇キト一愛サセ雅櫻ノ宮ト号シ玉ヘル事ヲ
載ス此意ヲ夫木集一咏セリ此一志ノ郡一非
ス後昆上件ノ説一惑テ混合スルト勿レ所謂
山ノ辺御井小墾田板田橋及波多横山隱山等
光華本州一罵リ混ス未其微ハ大和州及本州
一區別ノ討論アリ其真ヲ得テ稗論ムハシ
名所拾遺一牟呂山ハ飯高郡一アリトノ此哥
ヲ引證セリ今詳一スル一飯高牟呂山御厨ア
リ今未知山室アリ又此山室ノ地トス愈々牽
強謬傳ナリ

戸木城址 同処ノ南雲出川ノ水涯一アリ西ハ
イナシラ河ヲ帶北ハ水田東ハ曠野野辺一純

ケリ天文天正年中水造左中将具政居セリ戸
木御所ト称ス天正十二年豊臣秀吉執政ノ
大和国郡山城ハ羽柴義濃守伊賀州上野城ハ
筒井順慶志州鳥羽城九鬼大隅守本州神戸城
ハ生駒雅樂頭又木造小倭小森上野公ハ織田
上野公ニ加増本郡松島城ハ蒲生胤舜守氏郷
南伊勢田丸中務少輔鈴鹿郡関長門守倭州守
陀郡沢秋山芳野ノ三家蒲生ニ属ス織田信包
力分知小倭ノ諸士其命ヲ不聽織田信雄ニ属
メ各矛盾ニ及メ故ニ豊臣氏其魁首木造左衛
門佐具康力居ス戸木城ヲ撃ントテ織田信包
蒲生氏郷等其餘隣北ノ諸城ヲ命メ守レメ又

付城ヲ築ク氏郷領ハ曾原ノ砦上坂左門須賀
ノ砦ハ坂源左衛門尉八田ノ砦ハ生駒孫五右
衛尉小川ノ砦ハ谷崎忠右衛門尉ヲノ守警セ
レメ信包領ハ別保上野砦分部左京亮半田神
城ハ中尾内藏允浄土寺城ハ守岡金从連部
家三河守菴藝郡林城ハ村民部少輔ヲノ
守固メ戸木城ノ陣営ハ東ノ上臺口ハ蒲生氏
郷田丸中務少輔野辺川方ノ間ニ陣入南ハ沃
源六郎秋山右近芳野宮内大輔高野日置ニ雲
津川ヲ隔テ陣入西ハ榊原刑部少輔羽野ニ
陣入北ハ家西三河守風早ノ池ノ乾ニ陣入後
戸木ノ出城ヲ奪テ風早ノ明神ノ山ニ陣入



東ハ織田上野ハ信包公部左京亮陣ス四隅ヨ
リ頻ニ攻討トイヘ凡城兵堅固ニ守衛ノ陷ス
ハキナシ時日ヲ経ル間ニ此田ノ謀ヲ用ヒ凡
月中旬ニ至リ同郡小川ニ城兵潛ニ出テ新田
ヲ退クヲ氏郷ノ軍追テ挑戰ス氏郷自兵ヲ
率ノ駈ル処同郡見永ニノ城兵中川也藏ニ遇
フ危難ヲ遁ル又同郡菅瀬ノ高橋ニテ遇フ又
氏郷遁去ル故ニ空手ニノ城内ニ退キ警守ル
其後數回ノ挑戰ニ木造ノ長臣大塚弥三郎庄
村ニ於テ戦死ス八田作兵衛尉天花寺管太郎
八田角兵衛尉モ相繼テ戦死ス數日ヲ歴テ城
ヲ陷リ不能諸軍一時ニ撃入シト謀議ノケル

知ニ一身田專修寺門主ノ唆ニ及ヒ和親ヲ整
シトス既ニ秀吉信雄モ和親ノ由聞ヘケレハ
十月上旬城主左衛門佐具康閑城ノ濃州岐阜
城ニ詣ル故ニ遺蹟ハ上野ハ信包ニ属ス天正
十八年左衛門佐具康豊臣氏ニ属シ二万五千
石ヲ給食ニ岐阜中納言信雄ノ傳トナル慶長
五年石田治部少輔三成逆乱ノ時岐阜城ヲ廢
ス故ニ福島左衛門大夫正則カ臣長尾隼人正
ニ扶助セラレ福島正則ノ東照神君ニ奉言
メ安藝州ニテ二万石ヲ給ス木造大膳大夫具
康ト称ス幾ナラスノ其地ニ病卒ノ其系ヲ亡
セリ詳ニ同郡木造條ニ載タリ又木造ノ臣

田中仁左衛門郎合ノ遺跡今風早ノ池ノ辺ニ
あり

久居府城 江戸ヨリ百六里餘 旧名野辺今轉

ニテノシベト称ス前條戸木城東曠野ノ地ナ

リ故ニ野辺ト称シ同郡野村及小野辺アリ各

野辺ニ對ソノ名ナリ久居ノ名義ハ安濃津

ノ別府今ノ府城ヲ置テ永久ニ鎮居スルノ謂

ニノ寛文年中以後ノ名称ナリ 府治ハ旧領

主ナシ寛文年中西築置ナリ始祖藤堂和泉守

藤原高虎ノ孫藤堂佐渡守高通ヨリ歷代居ス

其嗣備前守高賢其嗣備前守高陳其嗣大膳亮

高治其嗣大膳亮高豊其嗣佐渡守高雅其嗣佐

渡守高敦 後本府ニ 其嗣左京亮高朶其嗣倅正

忠高真其嗣佐渡守高衡其嗣左近将監高真 後本

府ニ 其嗣佐渡守

○本村 久居府城ノ南ニアリ久居ノ旧原ノ

邑ト謂ナルヘシ 野村小野辺府城ノ良位ニ

アリ各本村ニ属ス久居領ナリ 相川 野村

ノ北ニアリ同領ナリ

小戸木 久居府城ノ良位ニアリ 正稅百五十

六石久居領ナリ

川方 小戸木ノ南ニアリ或ハ川形正書ス 正

稅二百五十八石久居領ナリ 神鳳抄曰河方

御厨

換村 川方ノ異位ニアリ或收村ト称ス 正税
百十九石久居領ナリ 神鳳抄云下收御園多
氣郡下收アリ然レ氏神鳳抄一志郡ニ隸ル故
ニコ、ニ標ス然レハ此地モ上收ノ名アルハ
ニ今未詳
新家 換村ノ東ニアリ方俗尔能美ト称ス 正
税七百四十五石久居領ナリ 属邑岸橋本邑
ノ南ニアリ 長持本邑ノ坤位ニアリ 區別
ニ新家庄アリ尔波乃庄ト土俗称ス後條ニ載
タリ
式内物部神社 同処ニアリ方俗天王森ト称ス
祭神未詳 スク瀬村川俣神社ヨリ半里

度會延經神名帳考證云物部神社大明命旧事
記云物部竺志連公新家連等祖鎮坐本記云山
辺行宮今号壹志郡新家村是也新家訓尔為乃
美今新家村有称天皇森此乎 度會正身神名
帳再考證云物部神社考證ノ説ニ從フヘシ天
孫本紀云物部竺志連公新家連等祖鎮坐本紀
云山辺行宮今号一志郡新家村是也今新家村
ニ在俗天王ノ森ト云此款未考 今詳ニスル
ニ延經考證ニ物部神社ノ名義ニ拠テ旧事記
ニ激ノ大明命ハ物部竺志ノ連公新家連等祖
ト云ニ拠リ鎮坐本紀ニ豊受大神迁幸ノ地山
辺行宮ハ一志郡新家村ト今号スル地ナリ即

方俗天王森ト称スル是物部神社ノ地ナルハ
キカト疑ヘリ正身再考證各前考證ニ後ヒテ
別異ナレ然レ此社地ハ未考ト云前考證及再
考證各同轍ニ別ニ異ナレ是物部神社ト云
名義ニ抑テ然祭神ヲ配セシテリ或云物部ノ
義ヲ宗トスルニ於テハ饒速日命ノ子宇麻志
麻遲命ヲ奉祀スル云ヘシ旧事本記云宇麻志
麻知余率天物部剪夷逆賊師軍兵平定海内云
云宇麻志麻知余率内物部乃豎矛楯嚴增威儀
又云天皇^{武神}詔宇麻志麻知余曰汝之勲功矣念
惟大功也公之忠節焉推至忠也是以先授神異
劔崇報不世之勲今配收眩之職永傳不貳之美

自今以後生々世々子々孫々八十縣綿必胤此
職永為龜鏡此等ノ言ニ抑レハ宇麻志麻知余
ヲ物部ノ遠祖トシ此ニ祭祀スルト云徴ナリ
ト云猶憶フニ物部ノ始祖ヲ此ニ祀ルト云片
ハ上祖火明命ヲ祀ルヘシ宇麻志麻知余ハ神
武皇朝ノ人ニ遠祖ニハ非ス火明命ヲ祀ル
ハ餘社ノ例ニ後ヒテ中祖ヨリハ始祖ヲ崇信
ノ祀ル如多シニ考證ニ後ヒテ佳ナリトス然
レ凡物部神社ノ名ニ抑カ故ニ此ニ神ヲ此ニ
異論アリ或云物部神社ト云ハ旧ト山ノ辺ノ
訛轉ニノ豊受大神山ノ辺行宮ノ地ナリ然ル
ニ後世延喜式ニ其時ノ轉寔ニ抑テ物部ト載

ラカ故ニ旧事記所載ノ二神ヲ此ニ配スル
ハ後人ノ其旧ヲ未考ノ失ニ拠レリ尚物部ノ
名了リト云ハ氏式帳ニ神名ヲ記ヒサレハ其
誤傳ナルモ討ルハカラスト云是卓論ナリ旧
名山ノ邊ナルハ必セリ大神宮鎮坐本記云泊
瀬朝倉天皇雄略廿一年丁巳十月朔倭姫命夢
教覺給ク皇太神吾如天之小宮坐尔天下且毛
一_ハ所_ル坐_セ世_ニ波_ノ御_座麟_ニ安_ク不_レ閉_ル湊_ル丹波国与佐
之小見比沼之奥并原坐道生子八平止女乃奉
齊御饑都神止由氣皇大神_ヲ我坐国欲交誨覺
給支尔時大若子命_ヲ差使_シ朝廷_ニ御夢之状
乎令言給支即天皇祥御夢則天皇今日相夢矣

汝大若子使_シ羅注_ト布理奉宣_ス今歲物部八十
氏之人等率手置帆負彦狹知二神之裔以育_ル谷
育鋤等始採山林天随神教度會山田原_ノ地形
廣大亦麓於是地大田命以金石天下津底根尔
敷立_テ天_ノ構立_テ宝殿_ト且_{シテ}明年_ニ戊午_ノ秋七月七日以大
佐々余奉_リ理_ル留_ル云云_云後但波国吉佐宮_ヲ遷幸倭
国宇太乃宮御一宿坐次伊賀国_ノ穴穗宮御二宿
坐次伊勢国鈴鹿神戶御一宿坐次山辺行宮御
一宿坐細注云今号志_ノ郡新家村是也_云全父ハ
度會郡度會宮ノ條ニ載タリ按スルニ雄略天
皇廿一年丹波州与謝宮ヨリ豊受大神_ヲ遷幸ノ
片鈴鹿郡野村ノ地ヨリ木邑ニ次第ノ_ニ遷御_ス

リテ一宿ノ地ナリ此頃路ヲ以テ後世一志ノ
取舎ヲ不焼ノ所置ナリ木又ニ山ノ辺行宮ト
填レハ旧名ナルハ必ヒリ故ニ前輩万葉集一
山ノ辺御井第十二及山辺五十師原及夫木家
隆為家法親玉隆覺等ノ咏ヲ此地ノ所傳トシ
或ハ本郡宮古村ノ志井ヲ混シタル弊説多シ
各條ニ注シ又河曲郡山辺村ノ條ニ詳ニセリ
此ヲ以テ山ノ辺ヲ約畧ノ物部ト後ニ填タル
ト云モ由ナキニ非ス然レハ上世ノ皇大神行
宮ノ地ニ後ニ物部神社ヲ訛リ置其神社ノ名
ニ知テ後人火明命及宇麻志摩遲命ヲ奉祀ス
ト臆断スルナルヘシ故ニ姑ク此ニ從ヒテ其

所祭神ハ未詳トイフハニ
木造 新家ノ異位ニアリ正統千六百八石紀
州白子領ナリ東鑑文治三年四月廿九日ノ
條ニ新家止木造寮田哥官寮頭トミハタリ
東明寺 同如ニアリ應仁元年足利義視山名
宗全細川勝元カ闘乱ヲ避テ本州ニ潛幸ニ同
郡多氣ヨリ須賀ノ積善寺ニ到リ其次ニ此刹
ニ入ル將軍家譜ニ載タリ其事蹟ハ後号本州
須賀ノ條ニ載ス
木造城墟 同如ニアリ国司北畠ノ氏族ノ木造
家歴代ノ居城ノ址ナリ北畠權大綱言頭能
ノ三男正三位顯俊南朝後小松天皇ニ奉仕ノ

本郡ヲ領ス油小路ト称シ木造御所ト号ス因
司北畠家ニ属ノ一手ノ将ナリ其嗣中納言俊
通其嗣権大納言正二位俊康應永二十年入道
出家人其嗣権大納言俊二位持康宝徳三年薙
髮ス其嗣権大納言俊二位教親應永二年奉四
十五其嗣参議右中将正四位下政宗父龜四年
出家四十三法名宗戒其嗣参議左中将俊二位
俊茂天文二年出家三十九其嗣左中将俊四位
下具政實ハ北畠国司晴具ノ三男ナリ天文廿
三年薙髮其嗣左中将俊四位下具康始左工門
後大膳大
夫ト称ス以上九世ニノ其系ヲ亡セリ始祖正
三位頭俊七世孫左中将俊茂ハ国司北畠左中

将晴具ノ姪塔ナリ其男ナシ故ニ具政ノ三男
ヲ嗣トシ始ハ木造兵庫頭具政ト称ス具政別
腹ノ男ニ其嗣ヲ命ノ木造左衛門佐具康ト称
メ本城木造ニ居ス父具政隠棲ノ戸木城ニ過
ル戸木御所ト私称ス永禄十二年国司具教ハ
具政ト兄弟トイハレ矛盾ノ意アリ其時木造
家ノ香華所源淨院住侶後還俗ノ滝川三郎兵
衛尉勝雅又羽柴下野
守ト木造ノ長臣柘植三郎左衛門尉等織田信
長ノ威风ヲ慕ヒテ木造ヲ属セント頻ニ説ト
進ム具政コレヲ聽ク滝川伊豫守ニ拠テ織田
家ニ通スル密策ヲ閉テ国司具教太憤怒シ木
造城ヲ撃ントス其長臣柘植三良兵衛力妻子

ヲ兼テ人質ニ買ケルヲ捕テ其臣中西甚大夫
ニ命ノ木造城ノ南雲津川ノ岸ニ母子ヲ縊リ
殺シ其屍ヲ串ニ貫テ磔ニス其後澤源六郎秋
山右近將監ヲ將トメ南方ノ諸軍本城ヲ撃城
兵氏ニ警固ニメ輒ク陥ルハ能ハス數日ヲ経
タリ天正四年北畠具教同信意没ノ後ハ織田
信雄ニ属ス同郡戸木城ニ居ス本城ハ織田信
包ノ知トメ富田平右衛門尉信濃守滝川左近
將監一益カ在番セリ天正十二年滝川一益流
宰ノ信包ノ西知ナリ同年木造具康豊臣秀吉
ヨリ蒲生飛彈守其餘將兵ニ命メ戸木城ヲ撃
シハ和親ノ具康濃州歧阜城ニ至リ慶長五年

ノ後福島左衛門大夫正則ニ寄テ安藝州二万
石ヲ領給シ病逝セリ前條戸木城ノ條ニ倭考
フヘシ

式外祇園社 祭神素盞鳴命 今同如ニアリ

北畠材親多氣窓蛭田むつし為成北帝の内時
天ノ下跡子てまかほまゝたそゝゝゝゝゝゝ
降ゝまゝりしたまふ此所移りまゝおれまゝ
まゝおれまゝおれまゝおれまゝおれまゝおれ
の人業名の昔備磨「ル」るまゝおれまゝおれ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
神のみまゝりまゝりまゝりまゝりまゝりまゝり
ひ海りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ハキセ〜〜のり侍〜〜波多北浦と池小
江〜〜新〜〜波多りさびも〜〜曇〜〜るを
のぢくを飛〜〜記さあ〜〜凡料〜〜高〜〜乃
物と流〜〜にり〜〜今北石魚の淡〜〜湖
水〜〜入〜〜〜と水〜〜つ〜〜水乃
浦多〜〜〜吉津丸船の〜〜つ〜〜小〜〜り
ら〜〜細〜〜の〜〜と〜〜波津と〜〜〜〜か
〜〜け〜〜おの〜〜を〜〜か〜〜び〜〜形を
〜〜星〜〜時か〜〜ぬれと〜〜梓〜〜お〜〜か〜〜る
うん〜〜は〜〜〜〜〜家北〜〜をな
〜〜ぬ〜〜の〜〜北〜〜す〜〜小〜〜あ〜〜る〜〜き〜〜お〜〜ん〜〜これ〜〜也
今本邑ニ桃樹ヲ多栽テ林トシ其實ヲ四方ニ

貨テ民ノ利トス春月花時ハ燦然トシ愛翫ニ
堪タリ群客コハニ到遊テ觀花ノ宴ヲナス多
シ本郡天野ニモ然リ
河原木造 木造ノ坤位雲津川ノ崖ニアリ故名
シ 正税百廿三石紀州白子領ナリ
舞出 河原木造ノ東ニアリ 正税二百五十九
石紀州白子領津領入組ナリ
甚目 舞出ノ東ニアリ向濃津府ヨリ南二里
正税六百六十八石八斗五合民家百四戸紀州
白子領二百五十九石六斗四升民家三十八戸
津領ナリ 神鳳抄云内宮甚目御園壺石五斗
九十二六月麥

観音寺址 同如ニアリ往昔観音寺アリ其本尊
観世音像ハ今尾張州海東郡江上庄甚目寺村
真言宗鳳凰山甚目寺ニ藏ス本尊聖観音長一
丈六尺腹内ノ小佛ハ本州甚目村観音寺ノ本
尊ニノ年記未詳洪水ニ流亡ノ漁史ノ畧細ニ
罹リテ尾州ニ出現ノ此寺ニ安セリ佛背ニ本
州甚目村観音寺ノ銘記アリ故ニ其由ヲ識
リト其寺ヲ甚目寺ト号ス村名モ甚目寺ト称
ス建久年中鎌倉將軍頼朝ノ創建ニノ梶原平
三景時奉行ス古刹ナリト云彼寺ノ傳ニハ勢
州甚目浦ニ出現ス故ニ寺號ニ称スト謂ヘリ
今考ルニ杜撰ナリ本州甚目浦ノ名ナシ其邑

ノ双疆ハ雲出川ノ南二十余丁ニアリ今モ注
々洪水ニ流漂ス処ナリ然レハ其寺廢ノ其水
佛軀モ漂水ノ為ニ海東ノ地ニ漂流セシヲ得
タルナルヘシ然ルヲ甚目浦ニ得タル故ニ甚
目寺ト称スハ其背面ノ銘文ヲ藏セテ一固有
ノ寺刹ヲ寓リ誇ルニ似タリ寺説ハ閣テ姑ク
本州ノ旧説ニ從フヘシ
閑法寺 同如ニアリ高一石五斗一升五合紀州
領主ヨリ国印免除アリ
見永川 川原木造ノ坤位ニアリ 正統五十六
七石紀州白子領ナリ 神鳳抄云内宮見長御
園廿町 外宮神領目錄見永御園三斗水見永

御園三度御祭勤之

新家庄 見永ノ南ニアリ 正統八百廿二石紀州

白子領ナリ旧トアル伊耶ノ訓ニノ近俗訛傳シ

テ爾波ト轉スルナリ 東鑑文治三年四月廿

九日條又建久元年四月十九日條ニ新屋庄ニ

ハタリ

称名寺 同知ニアリ高田專修寺末下野流ナリ

自然石佛ヲ付賞トス 寺傳曰称名寺中與第

ニニ泥洹院了道上人関東巡行ノ時岩流ノ岩

窟ニ到ル窟中余佛像ナリ各大石連綿ニノ石

匝ヲ盡ストイハレ鑿得難シコ、ニ了道末代

ノ龜鑑帰郷ノ賜ニセントテ三日夜丹祈ヲ凝

シ窟窟ニ入テ坐ス一佛像ヲ得シト祈ルニ三

日ノ曉天ニ一佛體ヲ感得ス随喜ノ落涙止ラ

ス笈中ニ負テ帰郷ス面貌坐光自然ニノ儼然

タリ今當寺ノ付宝トス記セリ海内佛軀及動

物ニ似タル奇石多シ各其地ノ産物ナリトイ

ハ凡一奇ヲ傳フ故コ、ニ標ス

野田 見永ノ西ニアリ 正統二百六十八石紀

州白子領ナリ 属邑出屋敷アリ野田菴藝郡

同名アリ

黒田 野田ノ北ニアリ 正統二百四十七石紀

州白子領ナリ野田ニ對ソ旧名畔田ナリ後訛

轉シテ黒田ト記セリ菴藝郡同名アリ 外宮

神領目録云黒田御園米二斗
小川野田ノ坤位ニアリ伊賀街道ニ民居ス
正税千二百五十七石紀州白子領ナリ
式内小河神社 同知ニアリ方俗ニ天皇子ト称
ス祭神電神 社ノ隅ニ池ノ形アリ須加村須
加社ヨリ半里 度會延経神名帳考證云小川
神社電神在小川村倭名抄云小川平加波越中
国雄神社万葉集云乎加未河伯 度會正身
神名帳再考證云小川神社小川村ニ在リ祀神
罔象ナリ 今詳ニスルニ延経考證小川神社
ノ名ニ抄テ小川村ニ在リ水灵電神ヲ祀レリ
ト云正身再考證前説ニ従ヒ小河ノ名ニ抄リ

水灵ノ神罔象ヲ奉祀スト云前證ハ小河淤賀
美訓同ニ抄テ電神トス後證ハ水灵ナルカ故
ニ罔象ト排スルト云ハ氏電神ニ従フヘニ式
社案内記此ニ従ヘリ小川邑ハ本郡ニニヶ知
アリ其一ハ其地多氣河ノ流ニシテ雲出川ノ水
源ニアリ又其二ハ本邑ナリ各雲津川ノ傍ニ
アルカ故ニ河水防禦ノ為ニ祀ル知ナルヘシ
孰レニ邑ニ所在トスルニ其一ハ水源深奥ノ
地ニ居ス其一ハ本邑ナリ総テ式社ノ所置ハ
他郡各東海ニ近キ地ニ多シ敢テ深遠ニ置所
ナシ然レハ此知ニ従テ所祀トスヘシ
宮古小川ノ北ニアリ伊賀街道ニ民居ス正

稅六百三十九石紀州松坂領ナリ
曰名都ナリ
度會郡同名アリ
神鳳抄云二宮都御厨麥
藪外宮神領目錄云都御園三石内六月塩一
石九十二一石又都御園四斗
今詮スルニ曰
名ハ都ニシテ宮古ハ後人ノ轉ノ記セルナリ
度會郡宮古モ然リ孰レ方俗ノ俚言曰昔ニ帝
都ヲ經營セシトテ使テ遣シ檢セラレシニ其
地ノ狭小ナル故ニ其事ヲ傳ムト云傳ヘリ或
云此地ハ旧名未詳天仁元年齊内親王群行ノ
歸途ニ官女甲斐カ和哥ニ拠テ後世名ク知ナ
ルヘシ各非トスヘシ憶フニ一志ハ犬牙ノ地
ニアリ上世ノ郡司ノ所居ナリ故ニ其地倉ヲ

此地ニ所置ニシヤケノ通音ニヤコト轉シ
タルナルヘシト云其例ハ大倭州域下郡畠木
村ニ宮古、炎アリ類聚ニ祐峰ノ歌

近行^近海北^北の志^志あり^{あり}も^も不^不查^查乃^乃名^名を^を分^分る^るは^は

即孝靈天皇廬戸宮ノ遺址ニシテ此レハ都ノ轉
ナルト明ナリ然ルニ同村ニ又三宅原アリ屯
倉ヲ所置ノ地ニシテ又三宅宮古ノ訓近キカ故
ニ三宅ノ炎ヲミヤコト轉セシモ旧都ノ地ナ
レハ尚都ノ炎ト称スモ背クハカラストモ云
ヘリ然ル片ハ此宮古ノ地ハ臆断トイヘ氏ニ
ヤケノ轉訛トノ穩當ナルヘシ度會郡ニ隸レ
ルモ然リ其條ニ論セリ

忘井 同知ニアリ

千載集 天仁元年奔宮群行ノ時ニすれ并々
ツルアリ

本居宜長菅笠日記云云のキ記と繋ぐは子
載ニ冠りて記されしを以て之を以て乃新出
つるよりつりつりて其の時誤りたりなる
一志の惣宮より二志よりわけておん御供は
女房連ハつりつりけれハこれ其の如し
ハ此等の名より多しとありあはれ今詮スル
ニ大倭ノ皇城ヨリ本州ノ勅使及奔王群行ハ
凡テ上世ハ伊賀州ヲ歴テ本州川口及一志ト

次第ノ順路ナリ帰途モ然レモ奔宮部類
ヲ案スルニ天仁年中ハ鳥羽天皇即位元年ニ
シテ絢子内親王ノ奔王ニ定ム時ナシ未群行
ナシ天永元年九月八日本州ニ群行ナリ即天
仁三年改元ニノ天永トス歸京ハ嘉承二年十
二月十五日ナリ天永改元ヨリ四年前ニノチ
載集云天仁ハ天永ノ謬ナルハシ絢子内親王
ニノ群行ノ詞書至當ナリ善子内親王ハ不當
然レハ絢子内親王ノ時ニノ今ノ京都ヨリ江
州及本州鈴鹿郡安濃郡本郡ト次第ノ菴藝ノ
標本ヨリ安濃一志ノ頓宮ニ到ル順路ナリ然
ルニ伊賀州ヲ経テ京師ニ至ルハ便道ニノ私

ナリ今ヲ以檢スルニ群行ノ供奉人ノ此一志
ノ頓宮ヨリ孰レ歸京セシヲ慕テ咏ル如ナル
ハシ本居考ノ歸京ノ時ニ填ルハ稍ク疎ナリ
朝野群載及中右記一代要記園大曆帝王編年
記等ニ載タリ多氣郡赤宮ノ條ニ詳ニセリ從
考フヘシ又近世同郡市場庄ト久米村ノ間
ニ宮道ノ傍ニ標石ヲ建テ東都関源内思恭カ
筆蹟忘井ト題シテ其深奥ノ処ニ小キ窟泉ア
リ其地ヲ夫サラン為ニ鳥居神祠ヲ設テ其旧
址ト罵レリ郷民好事者ノ所設ニ安ナリ此
宮古ノ地ハ僻地ニテ諸人ノ便宜ハ好カラズ
故ニ宮道ニ移タル意ナルヘシ然レモ真跡ニ

非ス近刊名所因會考モ此地ニ從ヒテ四方ノ
看官ヲ証セリ又雜記及拾遺其地ヲ詳ニセス
古屋州紙云忘井光明皇后熱病ヲ惱玉ヲ夢想
ニ依テ此水ヲ服病忽愈テ忘タル如シ故名ク
又万葉及夫木所載ノ且十師ノ清水ヲ此処ニ
充テ説モアリ各非ナリ光明后ノ所傳ハ飯高
郡伊規寺ノ謬傳ナリ其條ニ詳ニセリ

蚬陽五銓遺響一志郡卷之四

天花寺村 宮古ノ坤位ニアリ古昔天花寺ヲ建

故ニ名ク 正稅五百廿七石紀州白子領ナリ

天華寺 同如ニアリ天智天皇勅創ニシテ本尊某

師佛聖德王ノ作ナリ上古ハ大和ニシテ永祿中

河坂軍之時兵燹ノ為ニ焦土トナリ今終ニ小

堂ノ遺レリ其旧址ヨリ古瓦又土器佛具等

ヲ法々鑿得事アリ 洛東靈芝山大興寺俗ニ

芝菜師ト稱ス寺傳ニ天花寺庄ハ彼寺ノ領ナ

リ將軍足利尊氏夢中ニ一女來テ告曰今世ニ

百戰百勝ノ術ヲ授ヘシ大元國ニ軍神ヲ求テ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

崇敬スヘシ靈夢ニ應ノ元朝ニ乞フニ関羽將
軍ノ像ヲ遺レリ尊氏常ニ信仰シ此寺ノ傍ニ
安置シ庄園ニハ丹波州波見保庄伊勢国天花
寺庄小野庄等ヲ寄附ス即尊氏自筆ノ御教書
入家臣高武藏守師直カ状アリト載タリ今檢
スルニ此地ニハ此傳ヲ失ヘリトイハレ大興
寺ニ今ニ旧案ハ存セリ小野モ隣比ノ邑也
東鑑云文治三年四月廿九日丙申條不動仕庄
天花寺庄久氣次郎ト沙汰又ニ載タリ
天花寺城址 同知ニアリ天花寺左衛門尉居セ
リ後ニ同郡蘇原城ニ移居ノ越中守ト称ス
一志ニ天花寺ノ坤位ニアリ本郡ニノ一志ト称

ハスルハ所謂親里ト云ナリ一志郡司ノ所居也
神宮雜事記云康平三年八月三日伊勢守義孝
被配流於隱岐国已ノ事發以去元年七月天件
守為檢田入郡一志郡之知郡司伊元宿禰之位
宅焼拂已ノ而件宿禰下為郡司 豊受大神宮
之御領字阿射賀兼任也仍供祭物徴納之間同
以焼失^了依即件訃天被配流也
藥師寺 同知ニアリ高二石三斗二升五合紀州
領主ヨリ免許アリ一志正稅四百七十一石紀
州白子領ナリ
平尾 宮古ノ良位ニアリ 正稅六百八十八石
久居領ナリ多氣郡同名アリ

片野 平尾ノ乾位ニアリ 正税五百五石久居

平領ナリ多氣郡同名アリ

須賀瀬 平尾ノ良位ニアリ雲津川ノ水涯ナリ

正税千三百八十石紀州白子領久居領入組ニ

今詳ニスルニ千三百八十二石七斗八升民家

百五十七戸 屬邑高橋 本邑ノ南ニアリ

須賀ハ砂石ノ意ニノ河流ノ瀬ニ民居スルノ

謂ナリ 神鳳抄云外宮北高橋御園麥上公一

石 外宮神領目錄云北高橋御園麥一石九月

菓子

須賀瀬城趾 同知ニアリ渡辺筑後守居ス

八太 宮古ノ北ニアリ伊賀街道ニ民居ス安濃

津府ヨリ坤位三里ニアリ 正税千百四十七

石六斗五升民家三十一戸久居領ナリ旧名ハ

八多或八田ト録ス和名類聚抄八多ノ郷ナリ

或波多ト記ノ波多ノ横山ヲ填ルハ非ナリ

大倭州山辺郡ナリ前條ニ詳ニセリ 神鳳抄

云外宮八太御厨七十五丁廿五石外宮八太御

園四斗雜用一石二斗 外宮神領目錄云八田

村當時御贄穀米ニ俵又本郡此地ヨリ南西ニ

八田アリハツタト訓ス同字混スヘカラス

八太川アリ板橋ヲ架ス

式内波多神社 同知ニアリ俗竜王宮ト云社傍

川上ニ石橋アリ長四尺幅二尺許硯面ノ形ノ

コトク橋ノ裏ニ地藏ノ像アリ
ヨリ三里半 度會延經神名帳考證云波多神
社填安神在波多村倭名抄云八太 鉢多 大和国
波比賣神社倭名抄云駿河国埴生^ハ及布按多田
也 度會正身神名帳再考證云波多神社和名
抄八太 鉢多 雜例集云一志郡外宮八太御園上ノ
例ニ因^レハ御厨ニ祀ル如^ニノ倉稻魂命ナリ
又考ルニ万葉集ニ十市皇女參趣於伊勢神宮
時見波多横山宮吹黄刀自作歌河上乃湯都磐
村^ハ草武佐受常丹毛糞名常如女煮手ニツイ
ハムラハ五百箇磐石^{イハ}ナリ^ハ同^ハ切第^ハ五ノよ
第三ノ由ニ轉ス例前ニアリ日本紀第一卷ニ

伊弉諾尊斬刺遇突智為三段此各化成神也後
叙及坐血芝為天安河上所存五百箇磐石也即
此經津主神之祖也ト是ハ香山ヲ折テ出^ルル
ノ巖ヲ云然ルニ同第二卷經津主神ノ系譜ヲ
云フニ幡裂根裂之子幡箇男幡箇如ノ所生經
津主神ト^レ波巖ノ下ヲ裂流ル、水ノ靈無
形ノ神ヲ祭ノ主トナル經津主神ノ祖トスル
ナリ是以テ思フニ波多ニ磐村モ河辺ニニ此
神社ハ磐箇男ヲ祀ル^ル云ハニ今詳ニスル
ニ延經考證波多神社ノ名義ニ抑テ大和国波
比賣神社及倭名抄駿河国埴生ヲ引徵シテ祭
神埴安神ニ定ム其抑未詳故ニ此神社ニ奉祀

スルト決シ難シ正身再考證神宮雜例集ニハ
太御厨同御園ヲ所置ノ地ナレハ前例ニ例ヒ
テ教靈稻倉魂神ヲ祀ルハキト云ハ凡万葉吹
黄刀自ノ歌波多横山ヲ此地ニ填テ湯津磐村
古事紀云古事記云伊邪那岐牟岐所御佩之十
奉劔斬其子迦具土神之頸爾着其御刀前之血
走就湯津石村所成神名石折神日本書紀五百
箇磐石ニ相同シ故ニ波多ノ磐村モ此水涯ノ
一ニノ磐筒男神ヲ奉祀スルナルハシト云ハ
其引拠ハ然リト云ハ凡波多横山ハ恐ク此本
郡波多ニ非ス大倭州ニ所在ト謂ハシ然レハ
此地ニ非ス旧ト磐村ノ哥ニ拠テ磐筒男神ヲ祀

ルト云モ臆断ナルニ况ヤ其地ノ異ナルニ拠
レハ真トスルニ難シ波多横山ハ既本州鈴鹿
郡條ニ解セリ倭考ヘキナリ或社案内記填安
神ヲ奉祀スル知ト云此前證ニ定ヘリ或云古
事紀云波多八代宿祢命武内宿祢命ノ後也即
孝元天皇ノ皇孫武内臣ノ兒ナリ波多ノ臣ノ
遠祖ナリ故ニ此ニ祀レリト云倭名抄八太ニ
填ルト云ハ凡旧ト波多ナリ延喜式所載ノ如
シ凡テ和名抄ハ旧名ニ異ナル多シ故テ八太
ニ拘泥スヘカラス然ル片ハ地名ニ拠テ波多
神社ノ名起リ波多ノ臣ノ此地ニ上世所居ノ
因モナリテ其祖ヲ奉祀スト云モ証難シ姑ク

此ニ從テ八代宿祢命及武内宿祢等ヲ祀ル如
ト謂ヘシ

八太城址 同知ニアリ永禄年中田上讚岐守同

子息田上右近居セリ国司北畠家ノ属臣ナリ

飯高郡大河内軍ノ時城兵ノ連者ニアリ国司

滅後豊臣氏ニ属ソ其男田上兵衛尉父子朝鮮

ノ役ニ戦死ス此ニ至テ家系滅ス永禄中ノ後

天正ニ至リ日置大膳亮モ居セリ天正十二年

豊臣氏命ノ浦生飛弾守氏郷ノ与力生駒弥五

左衛門尉ヲ居セシム

小山 八太ノ坤位ニアリ 正税四百七十四石

七斗丑外民家十九戸久居領ナリ

垂水 安濃郡界ニアリ官道ニ民居ス 正税七

百二石津領ナリ或垂見氏書ス 属邑米津

垂水ノ東瀨ニアリ垂見ノ名義ハ涌泉ノ謂テ

リ然ルニ垂水ノ君ノ子孫垂見定長ヨリ四代

垂水廣信一作廣久安中羊前ヨリ此地ニ属セ

シト必セリ故ニ名ク 神鳳抄云外宮垂水御

厨九斗異本云上公一石雜用三石 外宮神領

目錄云垂水御厨九斗内六月塩三斗九十二同

前 産物幅廣ノ木綿布ヲ織テ四方ニ販ク方

俗垂水木綿ト称ス

垂水廣舒旧墟 清水旧墟ノ辺ニアリ垂水家ノ

事跡古事紀伊弉河 姓氏録本朝通記 本

朝諫争録

多氣窓堂

延喜式

摂津国豊嶋郡安見神社

和名抄

播磨国

長濟草

茅

ニハタリ垂水

廣舒ハ垂水定信ヨリ四世河内守ニ任シ後醍醐天皇ノ諫臣ニシテ歷代此地ニ居ス祖業ノ地ナリ本邑ノ北ニ鷲山ト云地アリ其山嶺ニ城跡アリ天父年中ヨリ以前ノ旧墟ニシテ廣舒在住ノ地ナルハシ其鷲山ハ散位山ノ轉ニシテ致仕散官ノ意ナルハシ

ノ子孫飯野郡蛸路村ニ居テ今ニ存セリト謂ヘリ非ナリ飯野郡阿和曾ノ條ニワタヒテカニセリ

垂水成就寺 同如ニアリ

一本長法寺ト号ス 本尊大日

如来。天台宗。開基弘法大師往昔ハ大利ニ

ノ僧坊十六宇アリ寺領三百貫ノ地ニシテ伽藍

也相傳云白河法皇伊勢行幸ノ時此ニ鸞輿ヲ

停メ寺領ヲ寄セラル元龜年中兵乱ノ為ニ寺

領佛刹モ悉ク頽廢ノ本尊ノミ民屋ニ安置セ

リ後ニ小堂ヲ造営メ今ニ存ス如ナリ今ノ堂

ヨリ西十町余ニ本尊大日如来出現ノ地ト稱

メ靈泉涌出ス如ナリ字ヲハシジヨ山ト名ク

此山ニ下品ノ介石ト散葉ヲ産ス爾後ニ注ク

拾得タリ 上人傳云往昔西行法師此寺ニ詣

ケルニ住侶ノ智ヲ計ント思フテ本尊仏智ニ

曉リマシテ小童ト化メ傍ノ樹上ニ昇リ戯ル

才見テ西行一聯ノ哥ヲ示ス
 猿河之原のりよをゆくあまのつらり
 卜口号ヒシニ彼小童谷曰
 犬北ゆゑるの法源寺あり
 卜聯ノ歌ニ答ヘケレハ西行奇特ノ事ニ感ノ
 其思ヲ止ムト傳ヘリ
 瑶輿ヲ此寺ニ停留シ又西行上人問答哥ノ事
 蹟雜記及瓊陽府志拾遺古屋州紙但諺等雷同
 ノ標出ス白河天皇行幸百鍊抄及神宮錄等ニ
 曾テ不載ルナリ或云二十一社記注又諸神記
 ニハハタリト云ヘ氏未詳或ハ嘉元二年拔定
 百鍊抄頭書日大治元年八月十日條大上法皇

渡御新造室町殿号泉殿云々或記曰此年兩
 院有欲參大神宮之儀云々此兩院ハ白河法皇
 鳥羽上皇ナリ前ニ云大上法皇ハ鳥羽天皇ニ
 ノ大神宮參幸ノ催リリトイヘ氏終ニ行幸ナ
 二寺傳此地ハ停輿ハ妄誕ナリ又西行問答ノ
 和哥ノ相似タルニ古今著問集ニ載タリ好事
 者流此說ニ拠テ偽妄セシト見ヘノリ
 古今著問集第五曰基俊城外ニ以移シ乃不事其家
 小極のち行りてよあまの采をりなりふ事乃
 有し却てとせぬと云ふは源ふくをり何を
 以ふそと移されハ處ニをりてそくはらふ
 二言ク是俗行のち口すれは事なりけり

平内六月塩三斗九十二目前

夫木集 證心法師

おるる人もあつりよ馴るる藻塩焼ゆ此方名寄

名寄

晴つりり高よめられたる考を厚記つて塩此あつりこり
此哥鴨長明伊賀記曰伊勢よりあつりこり
ておるるの川の流ゆきすふあつりこり
晴れりりきの河北沖つたつて河濱の松名屋乃
らあつりこりこれよりあつりこり
らあつりこりあつりこりあつりこりあつりこり
あつりこり載たり古屋州紙海道記立つ月日雲
もろりあつりこりあつりこりあつりこりあつりこり

首ノ哥ヲ引テ名寄ニ載トシ其名ナシ也
今詮スルニ雲津七郷ノ内長常ハ東北ノ海瀬
ニノ方俗雲津ノ鍋塩ト称ノ今多ク焼テ四方
ニ鬻ク其製他ノ塩竈ニ異ニ鉄鍋ニテ焼ク
故ニ鍋塩ト名ク是古昔製ノ遺タルナリ又焼
出ノ里ト称スルハ旧古藤方ヨリ東ニアリ万
治二年九月潮ヲ焼ク濱ヲ焼ノ田圃ニ耕ノ今
ノ如ク焼ヒリ其地ヲ字ニ焼出ト称ス其邑ハ
久ク絶テ塩濱ノ遺在セルヲ水田ニ耕耨セ
シナリ然レ旧名ハ今ニ存ス凡テ雲津郷ニ
及テ往昔ノ御厨ノ地ナリ紀由章名所拾遺
追考云焼出里ハ津ヨリ南藤方村ノ辺ニアリ

世俗ヤデント謂ハリ雲津ノ少シ北ナリ或ハ
前説ニ本邑ヨリ雲津ニ至ル海瀕ナリト云ハ
関莽ナリ今モ本邑ノ南ノ小森上野ノ民家ニ
柿桃ノ大ノ燒塩ヲ旅客ニ販クアリ上古ノ産
物ノ遺風ナルヘシ又藤方ノ名義ハ生土神
ノ小祠アル森アリ其蔚林名大樹ナリ其中ニ
周三圍許ノ藤花ノ葉生ヒ縵リテ春夏ノ交花
時ハ北觀ナリシカ今ハ終ニ其形ノ遺レリ
藤浮ノ名モコレヨリ起レリト謂ヘシ津府ノ
南ニ藤枝ト云アリ此ニ隣北スル故ニ名ク知
ナリ

名寄・大田北河料橋中細玄階後ハありあり
テ河川深々ナリ水乃枯々々々寸ハナリ
ナリ

皇后宮下野

類聚哥林 光俊

引

夫木 好忠

ナシ別知ニ非スヤ云云
建久元年奔宮良子内親王家貝合
名所拾遺追考紀由章云此ホトリニ此山ノ名

友人の書に於て其の事ありと云ふ

友了の書に於て其の事ありと云ふ

藻塩

夢のかほり酒のたぐひを海のものに似せしむるは

古哥 瓊陽俚諺ニ載タリ旧ト雜記ニ所載ニ

其集ヲ不知

本邑ニ往昔孝元天皇四世孫武内宿祢ノ裔愛

曾国政ト称ス考ニ名譽ノ人アリ又華モ名高

ク加良須社ハ詠詩ヲ作り後ニ飯野阿波曾ニ德

棲セリ其遠孫愛曾伊勢守南朝ニ奉仕ス事跡

北畠権大納言材親記及太平記ニ載タリ飯野

郡阿波曾ノ條ニ詳ニセリ此ニ畧ス前ニ謂フ

垂水氏ノ後裔ノ同郡蛸蛸ニ德棲スルモ此謬

傳ナリ然レ今ニ至リ証ヘカラス方俗ノ所傳

ニ従ヘリ

一志浦 一志郡ニノ垂水藤浮ヨリ雲津星合等

ノ東海瀕ヲ總ノ指ス名ナルヘシ 古今著聞

集卷二十云東大寺ノ上人春豪房伊勢ノ海一

志浦ニテ海人蛤ヲケルヲ見玉ヒテアハレシ

ヲナシテ皆買取テ海ニ入ラレタリユ、シキ

功徳ツクリヌト思ヒテ卧玉タル夜ノ夢ニハ

マダリ集リテ患ヘイフヤウ我畜生ノ身ヲウ

ケテ出離ノ期ヲ不知タマシニノ宮ノ御前ニ

参リテ已ニ得脱スヘカリツルヲ上人ヨシナ
キ憐ヲ玉ヒテ又重苦ノ身トナリテ出離ノ縁
ヲ失ヒ侍リヌル悲哉ヤト云フヲ見テ夢覺
ニケリ上人啼泣シ玉フテ限リナカリケリ
千載集 道田法師

新古今 俊成
つまよふ一志の浦はきくも月あまの浦は
あかきよめ破葉つむんはよふ一志の浦は
あまの浦はきくも月あまの浦は

新勅撰 家長朝臣
梓弓一志の浦はきくも月あまの浦は
あまの浦はきくも月あまの浦は

玉葉 鎌倉右大臣
月あまの浦はきくも月あまの浦は
あまの浦はきくも月あまの浦は

新拾遺 法眼源美
玉藻川の一志の浦はきくも月あまの浦は
あまの浦はきくも月あまの浦は

御集 古屋州紙後撰一作ル 後鳥羽院
つまよふ一志の浦はきくも月あまの浦は
あまの浦はきくも月あまの浦は

式内加良比神社 同知官道ヨリ四丁奥ニ
リ方俗片樋宮下訛称ス 祭神乾飯根命矢野
稻葉社ヨリ二里 度會延經神名張考證云加
良比乃神社乾飯根命在藤方村日本紀崇神云
出雲之臣遠祖甘美韓日挾同雄畧紀云上師連
祖吾筭進伊勢国藤形村私氏部名曰贄土師部
姓氏録云上師宿禰天穗日命十二世孫可美乾
飯根命之後也世記云安濃藤方片樋宮按韓日

乾飯片樋汲言通安濃志志西郡之交也故古記
或為志志藤方今属志志郡 度會正身神名帳
再考證云加良比乃神社姓氏録云天德日余十
二世孫可美乾飯根余後也此余ヲ此郡ニ祀ル
一ハ雄畧記ニ土師祖吾等進伊勢藤形村私民
部名曰トアリ考證ニ大神ノ后樋宮ト混セル
ハ非ナリ宮ト神社トハ別ナリ社地未考此乃
字乎尔遠波ニ非ス日本紀第一卷ニ溼土煮ヲ
一云溼土根トスルカ如クニト云ハ古ク訛リ
来タレハ乾飯根ヲラビニ云テニ用ノト
ナリニナリ 今詳ニスルニ延經考證ニ加良
此乃神社ノ名義ハ乾飯根余ヲ奉祀スルニ起

リ其神社ハ藤方村ニアリ其故ハ日本雄畧紀
ニ土師連吾等天朝ニ伊勢国藤方村私ノ民部
ヲ進ス名ヲ賜テ贊土師部ト云又其土師ノ宿
祢ノ祖ハ天德日余十二世ノ孫可美乾飯余ナ
リ此ヲ以テ藤方ニ此神ヲ祀リ其神名ヲ以テ
神社ニ名ニナリ日本崇神紀ニ出雲之臣遠祖
甘美韓日挾即乾飯ニ同ニ韓日乾飯ニハノ音
通ス倭姫余世紀云安濃藤方片樋宮ニ同ク故
ニ加良比乃神社ト名ク其社地ハ安濃志志ノ
ニ郡ノ間ニアリ旧記ニハ志方ニ作ル今モ一
志郡ニ属スト云ナリ憶フニ加良乃神社ノ名
義ハ乾飯余ヲ祀ルニ拠リ日本崇神紀及雄畧

紀姓氏録ヲ引徴ノ此藤方村ニ神社ノ存スル
ハ各然リトスヘシ然レ氏倭姫命世紀云安濃
藤方片樋宮ノ地ニ加良比片樋ノ訓相似タル
ヲ以テ混合スルハ大ニ非ナリ加良比ハ安濃
一志ニ郡ノ相接ノ中間ニアリ上世ハ今ノ垂
水及藤方村安濃郡ニ属ノ延喜式ニモ安濃ニ
隸属セリ後世其畧域ヲ異ニシ一志郡ニ属ス
今古ノ差ナリ片樋宮ノ地ハ旧記ニ録スル如
ク一志郡ニ属メ今古其異ナシ加良比片樋谷
別ニシ一志郡阿坂ノ條ニ詳ニセリ併考ヘシ
正身再考證ニ注解スル考證ニ徇ヒテ別ニ論
ナシ加良比片樋各自ニ別知ナルハ既ニ辨セ

リ加良比乃乃ハ泥土根ノ神名ト同ク煮根記
用シ根ハ乃ニ通音ナル故ニ乾飯比根命ノ名
ヲ正ニ神社号ニ用タルト云解ナリ乃ハ餘社
ノ田乃家大乃已曾ノ助字例ニ非ス實ニ神名
ノ根ニ通スノ訛傳ナリ發明スト謂ヘシ古屋
草紙神鳳徴古録等ニ祭神王師宿禰此如ヨリ
上器ヲ大神宮ニ献ス云云前ノ日本雄畧紀姓
氏録ニ拠レリ然レ氏ニ宮ニ此ヨリ上器貢獻
ノトハ旧典ニナシ其片樋宮ニ混スルハ倭姫
命世紀一書ニ本天照大神自美濃国廻到
安濃藤方片樋宮云ニ非後ヒテ惑ヘルナリ此ニ
拠テ伊弉旧跡閉書及瓊陽俚諺等ニ異説アリ

各無誓ノ言ニ抑テ惑論ナリ各後魏本郡阿坂
片樋宮旧墟ノ條ニ詳ニヒリ

上野 藤方ノ南ニアリ官道ニ民居ス方俗小森
上野ト称ス菴藝郡上野アリ往昔城府ノ地ナ
リ属邑高茶屋本邑ノ南ニアリ元禄年中因
ニ町屋ト記セリ貸茶店多シ本邑上野ハ上
世ハ藤方ト一邑ナリ今藤方上野小森ト分レ
リ正税四百九十一石津領ナリ

藤方城址 同処ニアリ永禄年中国司北畠ノ分
家藤方刑部少輔具俊入道慶由及其嗣子藤方
刑部少輔居セリ藤方御所ト称ス或曰藤方村
ニ刑部少輔居ニ上野ニ餘吾將軍平惟茂後裔

奥山常陸人住ス各多氣国司ノ幕下ナル然レ
北畠物語ニ小森上野城主奥山左馬允ト載
ス其祖先ナルハニ藤方慶由及刑部少輔天正
年中断亡セリ事實ハ度會郡三瀬條ニワマヒ
ラカニセリ

小森 上野ノ南ニアリ官道ニ民居ス正税九
百八十八石津領ナリ神鳳社云内宮小森御
厨四貫外宮神領目錄云小杜御厨塩三石内
六月一石九十二同

嶋貫 雲津川ノ北厓ニアリ雲津湖ノ内ナリ安
濃津ノ東二里ニアリ旧名雲途或雲出氏後世
ニ記ス上世ハ嶋貫ト録セリ官道ニ民居ス

正稅二千九百五十七石紀州白子領津領入組
ナリ本郷本邑ハ津領ナリ 属邑長藤白子領
ナリ本郷ノ東ニナリ 伊倉津長藤ノ與位ニ
ナリ 十上西伊倉津ノ北ニナリ 長常十上
西ノ乾位ニナリ 高峰本郷ノ與位ニナリ
池田嶋貫ノ北ニナリ 以上雲津七郷ト称ス
本邑ハ嶋貫ノ東ニナリ嶋貫ハ條郷ナリ然レ
トモ官道ノ取路ニ在リ故ニ世俗雲津ト称ノ
本邑ノ如ク惟ハリ 神鳳抄云内官嶋抜御厨
三石塩 外宮神領目錄云外嶋抜御厨六月塩
二石九月一石十二月一石神宮雜例集云一志
郡二宮御領嶋抜御厨 和銅風土記云雲宇途

郷公穀三百九十束三七田貢竹梅桃櫻等及柴
胡川苧等云云和銅年中ハ上世此郷名ナリ和
名類聚ヨリ後ハ此名ナシ今雲津郷ト私称ス
ナリ桃梅ナ貢人今絶ラナシ然レモ同郡天野
ニ桃林多裁テ花時ハ遊賞ノ騷土多シ夏月ハ
甜瓜菜瓜ヲ多産ノ民利トス夏秋ノ間桃實ヲ
四方ニ鬻ク天野桃ト俗称ス此地及木造等ハ
今亦裁多ク桃樹ニ應スルノ地ト謂ヘシ貢献
ノ事ハニシトナレモ上古ノ遺習ナルヘシ
天野 雲津ノ内高峰ノ巽位ニナリ津ノ東口藤
枝ヨリ到ル歧道ナリ標石ヲ建二里雲津川ノ
下流ニ歧ニ分レテ一洲ノ崎ヲナス所謂辛洲

ノ名ニ忘セリ。正稅七百六十三石津領十ノ
度會郡同名アリ。屬邑。小松本邑ノ良位ニ
了リ。神鳳抄云内宮箱木御園一石外宮三石
塩雜用三石。外宮神領目録云箱木御園三石
内六月塩一石九十二一石宛外宮當時御糞鳥
目一貫矢野村箱木一本傍注矢野ト記ス。
式内稻葉神社。同如東ノ瀨幸洲崎松林ノ中ニ
了リ。世俗加良須明神ト称ス。祭神稻和八上比
賣余其兒木俣神二座。入口左右桃林アリ。小
川橋ヲ架ス。鳥居社司右手水処左ニ神樂殿中
央鳥居正面本社左右殿造替ノ度ニ社地東西
ニ變レリ。同如式外落合社了リ。本社ヨリ川

ヲ陟リ二丁許ニ三尺許ノ塚アリ。大明神ト俗
称ス。星合社ヨリ五丁許乾位ニ了リ。此辺星合
領ニノ矢野ノ農民耕作スト云。三代實錄第
十頁觀七年夏四月十五日乙丑授伊勢国正五
位稻葉神從四位下從五位上勳七等椿神正位
下。度會延經神名帳考證云稻葉神社二座稻
羽八上姬余木敗神在矢野村加良須社小加良
須社此乎因造本紀云稻葉因幡也。因幡国ハ
上郡大江神社江與屋言通大屋姫余出出雲風
土記云八野若日女余素盞鳴余實其荒魂也。今
在矢野村八與矢同訓加良須者規陽雜記月水
過通詞之誤也。稻葉神名亡婦女祈月事称神驗

為名乎祭礼六月十六日于祇園御靈會同月同
旬度會正身神名帳再考證云稻葉神社二虫
稻葉ハ稻場ナリ前ニ出牛庭ニ同ク苧稻ヲ乾
ス知ナリ俗ニカラス崎ト云ハ稻ヲ枯スノ崎
ナリ又名取トノ星合濱ト云ハ乾會ノ濱ナル
ヲ雅言ヲ以テ呼ビナリ其辺ニ月讀宮ノ旧跡
ト云知アリ是ハ苧稻ノ事ニ抑テ此神社ニ月
讀尊保食神ヲニ坐祀レルヲ中古誤テ二社ト
ナセシメテナリシナルハ今ハ不然俗ノ月經
ノ禱ヲナスハ月讀ハ月清ノ辭ニ通ハハナ
リ月經ノ月トノニ云テ古事紀素盞鳴尊ノ御
哥ニ見エタリ今詳ニスルニ延經考證ニ稻葉

神社ノ名義ニ抑テ因造本紀ヲ引徵ノ稻葉因
ハ即因幡ニノ稻羽ハ上姬命同因八上郡大江
神社ノ江屋ト同ク大屋姫命ナリ此ニ稻羽ハ
上比賣ト同神又云今矢野村ニ在スニ抑リ出
雲風土記所載素盞鳴尊女八野若日女命荒魂
ノ名ニ八野矢野ノ訓相同ヲ以テ附會ニ此等
ノ神ヲ奉祀スル知トノ方俗婦女ノ月經ノ通
滯ノヲヲ祈ルニ神驗ニ応スト云ニ抑テ愈々
神ノ意トニ尚加良須ト稱スルハ勢陽雜記度
會郡山田常明寺境地ノ月經ノ不順ニ流水ヲ
汲用ル知土俗加利屋須岐ト稱スルヲ混合ノ
加良須ノ名ハ此加利屋須岐ノ通詞ノ轉訛ハ

ルノ名ナルハ例祭六月十六日祇園牛頭天
王會ト相同シ是素盞鳴命ノ女八野若日女命
ヲ祀ルニ暗ニ合スルノ謂ナリ按スルニ出雲
風土記ヲ引ハ出雲此地ノ過キ雲出ニ合ニ稻
葉因幡ニ牽強ニ天野ニ八野ヲ附會シ本社ハ
八上姫命即八野若日女命ヲ祀リ小加良須社
ハ若日女命ノ兒木俣神ヲ合祀ノ延喜式所載
ノ二坐ニ填ルノ義ナリ尚加良須ノ名ハ婦女
ノ月事ヲ祈ルニ批ルノ辭ハ恐クハ非ナリ前
説奉祀ノ神ヲ必定スト云ハ氏諸家異同區々
トノ一定ニ難シ或云伊弉諾尊、女可良須女命
ヲ淡路ノ津名彦ニ婚メ兒ヲ産テ即薨ス其可

良須女命ノ荒魂ヲ本社ニ祀リ小加良須社ハ
可良須女命ノ生ル兒天水中王命ナリ即加良
須ノ名此ニ起レリト粉河洞鶴加良須考ノ説
ナリ社記云祭神天津雅日神即伊弉諾丹尊
ノ兒天照大神ノ妹ニノ欽明天皇朝撰津国活
田長挾国ヨリ此伊勢国加良須ノ地ニ迂リ矢
野ノ神山ニ數歳ヲ經テ庶民ノ祈願ヲ満足ヒ
シムト云是前考證ニ云八野若日女命ヲ所出
ト同轍ナリ又云加良須社祠官今井氏修造勸
縁牒云延喜式神名帳所載須氏神社トス稻葉
神社ニ非スト云然レ氏其徴十二故ニ不取云
云以上三説各其祀ル神ヲ異ニス其須氏神社

ト云ハ正身再考證ニ云稲葉ノ名ハ稻場ニメ
牛鹿神社ノ名義ト同ク丹稻ヲ乾スノ場ナリ
加良須ノ名称モ其稻ノ木ヲ乾枯ノ謂星合濱
ノ名義モ此ニ拠テ稻ヲ乾シ會スル処ノ海濱
ノ稱ナルヲ雅致ニシ星合ト云ニ同シ其地境
二月讀命ノ旧蹟ト稱スルアレハ此社ニ月讀
命及保食神一坐ヲ上世ニ祀ルヲ後人誤テニ
ニ區ニ別チ祀リ加良須社小加良須社トスナ
ルハシ方俗ノ月經ノ祈ルハ月讀命ノ名ニ合
ヒテ神驗ヲ稱スルナリト云是無誓ノ言其徵
ヲ旧典ニ考ヘキナシ各前号ヲ排セントスル
ノ誣言ナリ後ニ難シ前ニ須氏神社ニ充ルハ

此星合ノ濱ト加洲ノ名義同キニ拠テ此ニ牽
強ノ稻葉神社ニ充ル処前説ヲ斥スルノ設ナ
ルハシ其故ハ神号ハ後号ニ辨ス加良須ノ名
ハ前考證月經ヲ祈ル処ノ轉語ニ非ス後考證
禾稻ヲ乾枯スルノ処ノ謂ニ非ス各非トスハ
ニ加良須ハ俗名ニ或ハ辛洲崎氏書ハ其神
社此辛洲崎ノ海岸蔚林ニ在テ常ニ海鳥及鳥
鴨等ノ宿人知ニメ鳥崎ノ名ヲ往昔ヨリ稱セ
シ知ナルハシ瓠陽雜記例祭ノ日鴨ヲ画タル
扇ヲ取シ遺事アリ既ニ北畠材親記ニ西行法
師此社傍ニメ画鴨ノ扇ヲ得タルト云所傳ア
レハ直ニ鳥崎ナルハキノ徵ナリ後号ニ全父

ヲ標ス然ルニ今辛洲ト書スハ此神社ニ對ス
ルノ海湾各富石多ノ往来ノ通船風波ノ時ニ
遇ヘハ甚ク辛才苦ノ此地ノ富石ヲ避テ階ル
知ナリ故ニ辛苦ノ義ヲ令テ辛洲ト轉セシト
云各其徴アリト云ハ凡旧名鳥鴉ノ棲居スル
ノ地ニ拠テ名ク其地名ニ拠テ画鴉ノ扇ヲ取
クト云テ旧シトノ鳥崎ナルト必セリ前考證
ニ素盞鳴尊女神稻羽八上姫命ヲ祀ルニ拠テ例
祭六月十六日祇園會ト同月同旬ト云ヘトモ
俗説ニ撰津国生田神社所祭ノ天雅日女命
陽雜記ニ天照大神ノ御姨ノ御神ニテ坐ス每
歲六月十六日祭礼トス伊勢ノ祠官等モ此神

ノ由来ハ考ヘ明サヌ由ナリ云云其時世ノ
俗弊ト云ハ凡天雅日女命ヲ祀ルト云ニ迹ニ
然凡天照大日靈貴尊ニ神系ニ御姨ナシ日本
書記一書ニ天照大神ノ御妹ニ載ラルニ拠レ
ハ此ニ拠テ神宮月次祭ハ六月十六日十七日
ナルニ擬ノ此社ニモ同日ヲ例祭トスナルハ
ニ考證ニ祇園會同月同旬ト云ハ凡祇園ハ十
四日ナリ牽強ノ八上比賣命ニ填ニカ為ニ設
タル附會ノ説ナリ雜記謂知ノ伊勢祠官等此
神ヲ不考ト云ハ妄ナリ前考證度會延經院ニ
注セリ慶安ノ中ナリ雜記撰著明曆中ニノ山
中為網同時ノ人ナリ何ソ此考證ヲ不識ハ臆

見ナリ其稻羽八上姫命ヲ奉祀スルト云ニ抑
ルニ旧事本紀第十一云天照大神ノ兒大己貴
命兄弟二神有欲婚稻羽八上姫相伴共行稻羽
於是八上姫答事八十神不聞汝言將嫁大己貴
命因斯事八十神欲殺大己神而詔黑怪神狀議
而議之大己貴神謂我在此國為事八十神應遂
而滅矣乃速退法至木杵國云云古事記云此
大國主之神之兄弟八十神坐ス其八十神各有
欲婚稻羽之八上比賣之志共行稻羽時於大穴
牟遲神負袋為足者率往於是到氣多前時裡菟
伏也其菟白大穴牟遲神此八十神者心不得八
上比賣雖負袋汝命獲之度會彦敬云新家清

政語曰往昔香良洲神社ノ森繁茂而白菟住焉
今森無不枯而無其事矣古事記所謂稻羽素
菟有八上姫之妣云云或云嶋貫村ノ東北ニカ
ラスノ森ト稱ノ小爵林アリ是稻葉神社ノ旧
址ナリ後ニ今ノ洲崎ニ遷ニ祀レリト云是矣
繁茂ノ白菟住ノリト云ニ相逆ニ今神域ノ海
瀕ナルヲ檢ノ古ヲ不知レハ解ニ難ニ此ニ抑
レハ前考證ニ同ク八上比賣命ヲ此ニ祀ルニ
必スルノ謂ナリ稚日女尊ヲ徵スルハ日本書
記一帛云是後稚日女尊坐于杵股殿而織神之
御服也素盞鳴尊見之則逆剥斑駒投入之殿内
稚日女尊乃驚而墮機以所持梭傷體而神退矣

云云即推日女尊授津国矣田部郡生田神社ト
同神ナリ式社案内記今云加良須社ノ内小加
良須社ト云是方俗本社ヲ天照大神ヲ祀ルト
之小加良須社ト称スルヲ此稻葉神社トスト
云義ナリ祀神稻羽八上姫余木股神ニ坐トス
上ノ諸説ヲ分解ノ其激扱ノ真トスヘキニ扱
テ考證ニ從テ稻羽八上比賣命又其兎木股神
ニ座ヲ奉祀ス知ニ姑ク從入リトマヘシ
多氣窓虽曰むうしぬゆらうすよよつりて扇
をひらき名りぬらひをぬくぬらひつらり
かからすむの文字うりつらひそぬれを
かゆしあらしらり母虚をうりむらりて

かゝる氣分もあつた

ぬゆつ行とつりのゆらり 既ニ其

扇子ノ所傳ハ此ニ扱レハ丑百歳ノ星霜ヲ歷

タル遺事ナリ 辛洲崎ヨリ澳ニ三丁許船カ

カリアリ西南風ハ好シ東北風ハ船カ、リア

シ、

矢野、神山 先輩此処トス伊勢名所拾遺ニ在

所ヲ記セス其引徴ノ哥ヲ載ス

万葉集拾 八磨

つよも家老の神山扇を白く深

新勅撰

鎌倉右大臣

存所を記すは扇を白く深

続拾遺

從三位行能

樽弓矢の^{カミ}神心考^{カミ}に於て^{カミ}云々^{カミ}た^{カミ}多^{カミ}川^{カミ}一^{カミ}け^{カミ}是^{カミ}玉葉集

樽弓矢の^{カミ}神心考^{カミ}に於て^{カミ}云々^{カミ}た^{カミ}多^{カミ}川^{カミ}一^{カミ}け^{カミ}是^{カミ}入道前太政大臣

新千載集

常盤井入道前太政大臣

秋とつ^{カミ}下^{カミ}以^{カミ}白^{カミ}男^{カミ}藤^{カミ}の^{カミ}妻^{カミ}の^{カミ}伊^{カミ}賀^{カミ}の^{カミ}神^{カミ}心^{カミ}考^{カミ}に^{カミ}於^{カミ}て^{カミ}深^{カミ}ら^{カミ}し

以上名所拾遺所載

夫木集

為家

樽弓矢の^{カミ}神心考^{カミ}に於て^{カミ}云々^{カミ}た^{カミ}多^{カミ}川^{カミ}一^{カミ}け^{カミ}是^{カミ}樽弓矢の^{カミ}神心考^{カミ}に於て^{カミ}云々^{カミ}た^{カミ}多^{カミ}川^{カミ}一^{カミ}け^{カミ}是^{カミ}樽弓矢の^{カミ}神心考^{カミ}に於て^{カミ}云々^{カミ}た^{カミ}多^{カミ}川^{カミ}一^{カミ}け^{カミ}是^{カミ}

全

全

紀由章名所拾遺追考云此処ハ雲出ノ辺ニア

リ然^{カミ}氏^{カミ}万^{カミ}葉^{カミ}ノ^{カミ}妻^{カミ}コ^{カミ}ノ^{カミ}名^{カミ}也^{カミ}一^{カミ}神^{カミ}心^{カミ}考^{カミ}に^{カミ}於^{カミ}て^{カミ}深^{カミ}ら^{カミ}し

ハ伊豫国ナリ為家郷ノ哥^{カミ}氏^{カミ}モ^{カミ}彼^{カミ}国^{カミ}ナル^{カミ}ヘ^{カミ}シ

云云真ニ然リ大名寄未勘伊勢国歟ト疑ヘリ

矢野ノ神山ハ伊豫国ノ名區ニ^{カミ}此^{カミ}処^{カミ}ノ^{カミ}味^{カミ}

非^{カミ}然^{カミ}レ^{カミ}氏^{カミ}諸^{カミ}家^{カミ}引^{カミ}拠^{カミ}ス^{カミ}ル^{カミ}ニ^{カミ}拠^{カミ}テ^{カミ}其^{カミ}謬^{カミ}ヲ^{カミ}ユ^{カミ}

ニ^{カミ}標^{カミ}ノ^{カミ}考^{カミ}索^{カミ}ニ^{カミ}備^{カミ}ヘ^{カミ}リ

矢野城址 同処ニ^{カミ}ア^{カミ}リ^{カミ}一^{カミ}矢^{カミ}野^{カミ}下^{カミ}野^{カミ}守^{カミ}歴^{カミ}代^{カミ}居^{カミ}セ

リ^{カミ}因^{カミ}司^{カミ}北^{カミ}畠^{カミ}家^{カミ}ニ^{カミ}属^{カミ}ス^{カミ}事^{カミ}蹟^{カミ}源^{カミ}平^{カミ}盛^{カミ}衰^{カミ}記^{カミ}第^{カミ}四^{カミ}十

東鑑^{カミ}第^{カミ}三^{カミ}十^{カミ}九^{カミ}太平^{カミ}記^{カミ}第^{カミ}三^{カミ}十^{カミ}一^{カミ}其^{カミ}餘^{カミ}ハ^{カミ}仁^{カミ}木^{カミ}義

長谷^{カミ}戦^{カミ}記^{カミ}ニ^{カミ}見^{カミ}エ^{カミ}タ^{カミ}リ

式内川^{カミ}俣^{カミ}神^{カミ}社^{カミ} 同^{カミ}処^{カミ}落^{カミ}合^{カミ}ニ^{カミ}坐^{カミ}ス^{カミ}一^{カミ}度^{カミ}會^{カミ}延^{カミ}絲^{カミ}神

名^{カミ}帳^{カミ}考^{カミ}證^{カミ}云^{カミ}川^{カミ}俣^{カミ}神^{カミ}社^{カミ}水^{カミ}分^{カミ}神^{カミ}河^{カミ}口^{カミ}湯^{カミ}村^{カミ}産^{カミ}社^{カミ}云

白山此乎 度會正身神名帳再考證云川俣神
社矢野村ニテリ加良須ヨリ三丁許ヲ去テ雲
出河ニ流ト成テ海ニ入其中間ニテル是ナリ
土俗落合社ト称シ又土ノ御前ト云土ハ過ノ
誤ニテ二流トナル衢ナリ河ノ海ハ入ル処ナ
ズルハ水戸神ヲ祀リテ速秋津姫命ナルハシ
今詳ニスルニ延糸考證河俣神社ノ名義ニ拠
テ水吳ヲ祭リ其社區ハ河口谷ノ内湯村ノ産
神白山権現ト称スナルハシト云然レモ本郡
河口谷十七村アリ出湯田ノ名アリテ湯村ナ
シ安ナリ白山権現ヲ祭祀ル処ハ此辺七ヶ所
アリ孰レ出湯田ノ白山祠ヲ指スナルハニ再

考證河俣神社ノ名ニ拠テ本郡矢野加良須崎
ノ西三丁雲津河ノ派間ニ落合社ト称ス或ハ
土御前ト云土ハ二派ノ衢ナル処ニ在ルヲ以
テ河俣ノ名ニ應ストニ河海ノ境ナレハ水戸
神速秋津姫命ヲ祀レルナルハニト疑ヘリ後
證ハ竜熙道神名帳考正云天野村去加良須三
町許雲母河為ニ流入海在其中間故称落合社
称土御前此ニ拠ルナリ式社案内記及蜷陽雜
記拾遺本郡須賀瀬村八幡祠ヲ免ツ祭神上靈
トス古屋州紙水戸神ヲ祀ルトス後七難ニ然
氏須加瀬ハ雲津河ハノ水源イナシテ川ト云
下河ノ末流ト二派ノ落合ノ如ニテ川俣神社

ノ名ニ合ヒルニ似リト云ハ凡再考證考正等
ニ所載ノ天野辛洲社ノ南位雲津川ニ岐ニ公
ル落合ノ地ニ所祀即川從ノ名ニ相忘ス力故
ニ旧説ニ從テ式社業内記勢陽雜記拾遺ノ説
ハ不容ト謂ヘシ土靈ハ土御前ノ俗称ニ從テ
ト云ハ凡須加瀬ハ八幡宮ヲ實ハ土灵ト謂ヒ
難ニ或ハ水戸神速秋津彦命トスモ臆断ナリ
其徴ナシ故ニ雲津川ノ岐流井倉津ト天野ノ
中間河合ノ祠ヲ姑ク此ニ從ヘシ祭神土灵ト
ス水灵ト云ハ牽強ナリ尚誓ヘキナリ
星合 天野ノ坤位ニ了リ 正税四百八十石民
家四十六戸紀州白子領四百八十六石八斗民

家二十三戸津領ナリ 属邑岡田本邑ノ良位
ニ了リ 神鳳抄内宮波豆御厨四丁九段六石
六九十二月 異本ルニ豆氏
星合城址 同知ニ了リ 星合権中納言源頼房
住ス天野信景塩尻ニシハシリ
式内須氏神社 同知ニ了リ方俗星社ト称ス波
氏ノ誤ナルハシ神鳳抄ニ抄レリ祭神天棚檝
姫命 大口村加世智社ヨリ乾位一里十丁
度會延經神名帳考證云波氏神社八衢神道饗
祝詞云八衢比古八衢比賣今云八手保村夜遲
波氏音通 度會正身神名帳再考證云須氏神
社一本須作波是也今曾原村ノ辺ニ波氏村了

リ神鳳抄ニ蘇原御厨波氏御厨ト載ケレハ此
神社ハ御厨ニ祀ル神ニテ倉稻魂ナリ今詳
ニスルニ延經考證ニ波氏神社ニ作り名義ニ
抑テ祭神ハ衢神ノ名ニ相似タルニ因リテ此
ニ祀ルトスハ衢ノ神号ニ抑テ一志郡八手供
村ニ在トス夜遲摩多神ノ夜遲ハ波氏ニ通音
スル故ニ其社号ハ波氏神社ナリト云謂ナリ
延喜式旧ト須氏ニ作ル考證ニ八衢神ヲ牽合
スル故ニ強テ波氏ニ作ルナルハ正身再考
證ニ須氏ヲ一本ニ波氏ニ作ルハ真ナリ今同
郡蘇原村ノ傍ニ波氏ノ村名ナリ即神鳳抄ニ
蘇原波氏ノ御厨ヲ載ルニ因テ波氏ノ徴トス

然レ氏今此地ニ波氏村ノ名ナレ古存ノ今之
ニシテナリ御厨アル地ニ祀ル知ナレハ倉稻魂
ノ穀灵ナリト云波氏神社ハ考證ノ前説ニ從
ヒ既ニ波氏御厨ニ牽強ノ其地其神ヲ定タル
ナリ竜熙道神名帳考正云須氏神社蘇原辺須
氏村ニ在ト云是等ニ抑テ然云ナルハ各後
ニ難ニ須氏ハ延喜式ニ所填ニ波氏ノ差誤
ニモ非ルハニ須氏ハ洲手ノ轉ナルハニ其地
海涯ニ迹ツ雲津河ノ下流ニアリ須川雲津ノ
名モ河洲ノ謂ニノ吉野日記ニ瓠州雲津川洲
ノ股河口等ノ古名ナリ洲ノ股モ是ニ相同ニ
猶星合ノ濱ノ名勝ナリ今海涯ニ非スト云ハ

氏上世ハ入海アリテ海潮ニ通セシルニ後
号三渡ノ濱ノ今古其地ノ異ナルニ同ニ即倭
名抄一志郡一志郡吳服郷ニノ吳服ノ名モ此
神社ノ祀ル神ニ抄レリト云ハシ現存六帖ニ

フエノ海名ヲワケテ渡ルル如クハ星名ノ濱

題林和哥集及夫木抄各伊勢海星合ノ濱ト咏
人ル片ハ此ヲ指スナリ其餘他郡ニ星合濱ト
云地ナシ此須氏神社ヲ方俗星合社ト称シ星
合村ト名クモ各相同シ牽牛織女ニ星偶會ノ
事跡ヲ傳ヘテ星ノ社或星合社ト俗称スルニ
由テ今社域ノ中ニ小祠七宇ヲ祀レリ是七夕
ノ名ニ抄ルノ義ナリ旧事本紀第十一云今天

棚機姫命織神衣七月七日天棚機姫神行天地
之衣日造索麵祭之衣服満足而餽随意是牛女
ニ星ノ謬傳ニ附會ノ偽撰ナリ古語拾遺相同
ニ倭姫命世紀云天棚機姫命織大神和妙神衣
是号磯宮云云類聚神祇本源云建八尋殿屋令
天棚機姫神ノ孫八千々姫命織大神御衣此ニ
説ニ抄テ此神社ニ天棚機姫命ヲ祀レリトス
牛女ノ二宿ノ事ニ非ス織女星ヲ夕ナバト
訓スルモ此天棚機姫神ヨリ所出ノ訓ナリ孰
レ吳服郷名ニ由テ誓ルニ祀神ハ漢織吳織ノ
ニ神ナルハシ牛女偶會ノ一ハ五雜俎云統弁
楷記云七月七日織女詣牽牛牛女事始於弁楷

出武丁之妄言成於博物志兼接之浪說千歲ノ
下婦人女子傳為口實可也文人墨士乃習為常
語使天上列宿被汚蟻不亦可怪之甚邪
紀貫之家集

赤指記晋武丁ノ謬妄ノ言ニ出テ和漢貴俗又
人藻客及兒女子ノ常談古今ノ弊習ヲ傳ヘリ
紀氏其非ヲ斥ノ披霧ノ卓言ナリ皇國ニ其神
世ヲ謬傳ノ孟浪ノ言ニ至ルハ猶忌避ハシ式
社案内記祭神多奈波太姫余ト載ス伊弉名所
凶會波多神社ニ訛レリ曰事紀ハ取舍ナリ倭
姫世紀ニ從ヒテ天棚機姫余ヲ祀ルニ姑ク從

フハニ猶方俗ノ俚諺ト云ハレ此ニ據用スル
知ナリ

須河 星合ノ北雲津川ノ南厓官道ニ民居不安
濃津ヨリ二里馭舎茶賃店多シ 正稅三百十
四石八斗七升六合民家八十六戶紀州白子領
ナリ六百六十八石二斗六升民屋六十五戶津
領ナリ 屬邑森本邑ノ東ニナリ旧名築川或
洲川氏記セリ雲津川ノ轉畧ナルハニ世俗南
雲津ト稱ス嶋拔ハ雲津川ノ北ニナリ本邑ハ
南ニナリ他州ニ雲津川ノ名ニ擬テ總テ雲津
ト云故ニ南北ニ別テ私稱スルナリ
雲津川 嶋貫ト須川ノ間ニ流ル本州第二三ノ

大河ナリ白砂ニ石ナシ夏秋ノ間ハ洪水注
々ナリ故ニ舟漕ナリ春冬ハ水落石露ニノ假
橋ヲ架ス水源ハ大倭州宇陀郡界杵平ヨリ
出ラ石名原津川ヨリ八知谷ノ村邑ヲ歴テ
竹原谷ノ村邑ヲ次第ノ一派ハ本郡上多氣ヨ
リ流出下ノ川諸邑ヲ経テ八手俣竹原ノ界ニ
至リ八知谷ヨリ出ルト合ス東ニ流テ又榑原
小倭谷ヨリ出ル一流ト合シ大仰ニ至リ一二
派ト合シ庄田ニ至リ安濃郡長野ヨリ出ルト
合シ又一派八手俣川ヨリ波瀬ヲ歴テ至ルト
其村ニ至テ一派トナリ須賀瀬ニ至ル又一派
小川小原飯福田ヨリ出テ諸派ト合ス矢下川

ノ下流ナリ木造ヲ経テ流トナリ雲津川ト
称ノ鷗貫須川ノ間ニ流テ長常井倉津矢野ニ
至リ東海ニ入ル衆名郡西屋丁及度會郡豊宮
川ノ如ク水源溪澗ノ數十流一派ノ所出ナリ
伊弉国和銅風土記曰雲宇途河出鮎鮎鯉鮓及
菘菜苔等洪水及逆浪則郷民浴水漲瀬防急水
千之一者及溺死

俊頼

文治六年百首

雲津川をさぐりまの苗代に秋はをくねくね入る

夫木集

大中臣親守

川を流るる月れみふまよきそひや雲津の流のねむり

榮雅

吉野日記延元三年二月四日條云高師泰細川

頼春等京都ヨリ突向六日黒地川ニ至リ十四日蜷州雲津川洲股川口ルニ於テ合戦師泰等敗北云々今誓ルニ足利ヨリ北畠家ヲ征スル時ナリ洲ノ俣ハ須賀瀬河口ハ今ノ河口谷ナルヘニ其謂ハ古昔ハ江州ヨリ鈴鹿郡安濃郡掠本ノ南ヨリ安濃河原ヲ経テ本郡新家木造ニ至リテ雲津川ヲ涉リ日本一志駅ニ至ル順路ナリ今ノ嶋貫ヲ涉ルニ非ス又下流ハ雲津郷ヨリ星合ノ西ヲ涉リテ一志ノ駅ニ至ル古街道ナリ今古ノ差ヲ以テ洲ノ俣ノ稱ヲ

識ルヘニ此川ノ古戰場也ハ難太平記ニモ載タリ方俗此河ヲ限リテ以南ヲ南伊勢ト稱シ以北ヲ北伊勢トス永祿天正中国司北畠家ハ河ヨリ以南ヲ管裁ノ河ヨリ以北ハ関家神戸及長野ノ諸將領セリ信長侵地ノ後ハ信雄信孝滝川一益等ノ領ス如ナリ天正ノ晩年ニ及テ豊臣氏一統ノ後ハ北畠郡尾州ニ属ノ織田中納言秀次ニ領セラル南ハ蒲生飛騨守等ノ所給ナリ故ニ今ニ至リ南北ノ堺域トス肥留須川ノ南官道ニ民居ス旧案ニ日留ト載ス又日出氏記セリ正統千六百廿八石紀州白子領ナリ属邑西ニアリ小坂江ハ巽位ニ

了り月本ニ至ルノ間官道照了り肥田繩手ト
稱ス長十二町余

金剛寺 中肥留ニ了り高九斗五升紀州免許也
笠松 肥留ノ内小舩江ノ東ニ了り正稅百九

十六石紀州白子領ナリ河曲郡ニ同名了り田
堰了り笠松堰ト稱ス

曾原 笠松ノ坤位ニ了り安濃津ヨリ南二里半
旧名蘇原 正稅千九百五石紀州白子領津領

入組ナリ 屬邑 相子垣内 田面了り出
屋敷小字了り即曾原茶屋ト稱ス官道ニ了り

神鳳抄云内宮蕨原御厨六十二丁百步又云九
町三石六九十二此外神曰此町 外宮同前

外宮神領目錄云蕨原御厨上公家三石塩三石
六月米一石塩一石九十二同 虻陽府志云建

久七年後鳥羽院ノ勅ニヨリ蕨原御厨地頭職
笠置寺ニ寄附スト載タリ

蕨原城址 同如西ノ端ニ了り海瀕ニ迹ニ 天
花寺越中守同男天花寺新左衛門尉居ス伊規

兵乱記ニハ夕リ

大中臣定隆墳 同如今ノ曾原茶屋ノ東字ヲ山
ノ腰ト云知ニ了り方俗勅使塚ト稱ノ小祠ヲ

建每例祭十一月コレヲ祀レリ 事蹟ハ東鑑
第二治承五年十月廿日條 源平盛衰記第二

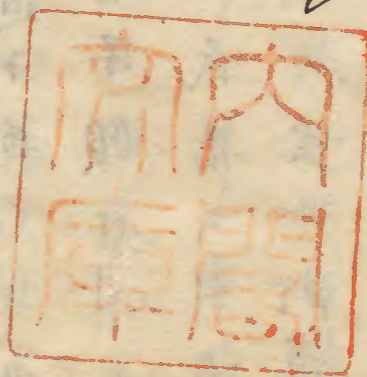
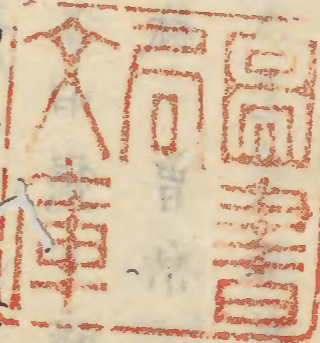
十七 平家物語第六養和元年八月七日條

百練抄第九養和元年八月十五日條 = 見ヘタ
リ今四本ナ詳ニスルニ大同小異ナリ源氏ハ
十郎藏人行家及兵衛佐頼朝ヲ指メ平家ノ沙
汰トノ追伐調伏ノ祈禱ナリ盛衰記平家物語
ニハ離宮院ニ卒スト載レ凡東鑑ヲ正史トシ
一志ノ馭家ニ死セリト決スハニ況ヤ今ニ及
テ此地ニ遺址ノ存スルニ抑レリ然レ凡百練
抄所載安徳天皇養和元年九月十三日ノ事蹟
ナリ東鑑所載治承五年九月十九日即養和元
年ナリ七月十四日改元此録ハ凡テ治承四年ヨリ六
年ニ至ル即壽永元年ニノ養和ノ條ナシ準之
識ハニ盛衰記所載同九月十九日平家物語所

載九月三日谷年月ハ相同ニ其日ハ稍ク差ハ
リ旧録ノ錯失所傳ノ謬ナリ

中林 曾原ノ乾位ニナリ旧ハ中道ト称スナル
ヘシ 正稅五百六十四石紀州白子領ナリ
属邑月本本邑ノ西ニナリ官道ニ民居ス月本
貸蒸店駅舎ナリ此如ヨリ伊賀州ニ至ル街道
ナリ伊賀越或ハ阿波粟越ト称ス標石ナリ本
郡久居府ニ至リ大村垣内ニ至テ伊賀州ニ入
月見山 同如明神ノ東ニ小キ岡ナリ月見山ト
名ク何ノ故ニ此名ヲ設ケタルヤ未詳誓ルニ
月本ノ名称ニ抑テ名クナルヘシ
中道 月本ノ南ニナリ官道ニ民居ス 正稅七

百三十三石紀州白子領ナリ
小津中道ノ南ニアリ官道ニ民居ハ同知里ゾ
七ノ橋ヨリ五十二間南ニ一里塚アリ正税
六百七十一石六斗九升九分四厘四微
子領ナリ六十三石五斗六升九分四厘
ナリ神鳳抄云内宮生津御園六斗六九十二
徴古録云生津今ノ小津ナルヘシ
牛頭天王祠同知ニアリ



凱陽五鈔遺響志郡卷之中終

紙數六拾九枚

Handwritten text in vertical columns on the right page of an open book. The text is written in a cursive style and includes several lines of characters, possibly representing a list or a record. The ink is dark and the paper is aged and yellowed.

